

ログ管理アプリケーションの ヘルプ

ArcSuite 4.0

はじめに

このたびは富士フィルムビジネスイノベーションのArcSuite®をご利用いただき、まことにありがとうございます。

一般に、企業活動では、各業務に関する情報はさまざまな形態のドキュメントとして存在しています。ここでいうドキュメントとは、紙に書かれた文書だけを示す狭義のものではありません。紙はもちろんのこと、ホワイトボードに書かれた文字や図表、プロジェクターやテレビに映し出された映像などを含む広義なものを指します。

ドキュメントは一般に、ひとりの手で作成されるものではなく、複数の人の意見交換や討議を経て作成されます。単純な作業や複雑な計算はコンピューターに委ねられ、あらゆる分野でさまざまなソリューションが展開されていますが、ドキュメントの作成では一般に人が中心なのです。

ArcSuiteは、「ドキュメント」に着目して「人」と「人」をつなぐ、「ドキュメント指向」のソリューション・パッケージです。ArcSuiteをご利用いただくことによって、さまざまなコンピューターシステムを統合したうえでのドキュメントの共有や管理が可能になります。

お使いの商品構成によって、次の機能が標準で提供されないことがあります。

コラボスペース、ドキュメントレビューオプション、ワークフロー、分類ビュー、関連文書検索サービス、原本性保証オプション、キャプチャリングサービス、統合検索サービス、オンラインバックアップオプション、ドキュメント一括操作ツール連携フォルダ for DocuWorks、連携オプション for Working Folder

本書の内容は、Microsoft Windows Operating System、およびWebブラウザの基本的な知識や操作方法を習得されているかたを対象として記述しています。

Excel、Microsoft、Windows、およびWindows Serverは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

その他の社名または商品名などは、各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporationの許可を得て画面写真を使用しています。

ご注意

- ・ 本書の編集、変更、または無断での転載はしないでください。
- ・ 本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・ 本書に記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

FUJIFILM、およびFUJIFILM ロゴは、富士フィルム株式会社の登録商標または商標です。

ArcSuite、およびDocuWorksは、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

著作権について

本ソフトウェア、およびバックアップのために複製されたソフトウェアに関する著作権等を含む一切の無体財産権は、弊社および弊社への供給者に帰属します。

(c) 2002-2021 FUJIFILM Business Innovation Corp.

マニュアル体系

ArcSuiteには、次のマニュアルおよびヘルプがあります。

マニュアルは、PDFファイルまたはヘルプの形式で提供しています。

主なマニュアルは、『ポータル画面のヘルプ』から参照できます。『ポータル画面のヘルプ』は、Webブラウザの操作画面にある [ヘルプ] から表示できます。

補足 お使いの商品構成によっては、提供されない機能の説明がマニュアルに含まれることがあります。

■ 管理者ユーザー向け

| 名称 | 概要 |
|------------------------------------|---|
| セットアップガイド | 本製品全体のセットアップ方法について説明しています。 |
| システム管理者ガイド | リソース管理サービスの概要、機能、管理操作を行うコマンドについて説明しています。また、本製品の運用に必要な管理作業について説明しています。 |
| ドキュメント管理サービス管理者ガイド | ドキュメント管理サービスの概要、機能、および管理操作を行うコマンドについて説明しています。 |
| ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ | サーバーで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。 |
| ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版のヘルプ | クライアントPCで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。 |
| オフラインバックアップ・リストア運用ガイド | オフラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。 |
| リソース管理アプリケーションのヘルプ | ユーザー、グループ、ユーザーロールの追加、およびライセンスの編集、検索について説明しています。 |
| ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ | ログインサーバーでの認証モードの設定について説明しています。 |
| メッセージ通知管理アプリケーションのヘルプ | メッセージ通知サーバーの設定、メッセージのプール管理、メッセージテンプレートの設定について説明しています。 |
| ポータル管理アプリケーションのヘルプ | ユーザープロフィールに表示する項目の設定、お知らせの設定について説明しています。 |
| ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ | 属性テンプレートや表示する属性の設定、表示するボタンの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。 |
| 表示アプリケーション管理ツールのヘルプ | 表示アプリケーションのテンプレート、システム環境の設定について説明しています。 |
| ログ管理アプリケーションのヘルプ (本書) | ログを表示する機能、ログを取得する機能、および保守情報を一括で取得する機能について説明しています。 |

| 名称 | 概要 |
|-----------------------------------|--|
| 監視ツールのヘルプ | ArcSuiteのコンポーネントにアクセスしているユーザー、データベースの状態、およびセッションの状態を監視する機能について説明しています。 |
| ドキュメントスペースドキュメント操作URLリファレンスガイド | ドキュメントスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。 |
| オンラインバックアップ・リストア運用ガイド | オンラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。 |
| e-文書法対応 概要説明書 | e-文書法対応の概要および原本性保証オプションの機能について説明しています。 |
| コラボスペース管理アプリケーションのヘルプ | コラボスペースのメールの設定、ログの設定、およびタスクやメッセージの用語をカスタマイズする設定について説明しています。 |
| ワークフロー管理アプリケーションのヘルプ | ワークフロー定義または起動テンプレートの作成者および公開者の設定、ログの設定、外部コマンドの設定について説明しています。 |
| キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ | キャプチャリングサービスの監視キューに対する操作について説明しています。 |
| 統合検索サービス管理アプリケーションのヘルプ | 統合検索サービスのリソースの設定、収集スケジュールの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。 |
| コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド | コラボスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。 |
| ワークフロー操作URLリファレンスガイド | ワークフローの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。 |
| Webサービスインターフェイスリファレンスガイド | ArcSuiteの機能にSOAPを使用して接続するAPIについて説明しています。 |
| ドキュメント管理サービスSDKリファレンスガイド | ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。 |
| コラボスペースInterface Toolkitリファレンスガイド | コラボスペースのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。 |
| ワークフロー Interface Toolkitリファレンスガイド | ワークフローのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。 |

■ クライアントユーザー向け

| 名称 | 概要 |
|----------------|---|
| ポータル画面のヘルプ | ポータル画面で、お気に入りの編集、ユーザープロフィールを変更する操作について説明しています。 Webブラウザの操作画面にある【ヘルプ】から参照してください。 |
| アドレス帳のヘルプ | アドレス帳で、ユーザー、グループ、ユーザーロール、およびタスクを検索する操作について説明しています。 |
| ドキュメントスペースのヘルプ | ドキュメントスペースで、登録、属性の変更、検索などのドキュメントを管理する機能の操作について説明しています。 |
| 表示アプリケーションのヘルプ | 表示アプリケーションで、ブラウザーイメージ変換された画像を編集する操作、およびユーザー設定について説明しています。 |
| 検索条件式のヘルプ | ドキュメントスペースの詳細検索で、全文検索または属性検索の条件式をXMLで指定するときの記述方法について説明しています。 |

| 名称 | 概要 |
|-----------------------------------|--|
| 簡易操作のヘルプ | 簡易操作画面でドキュメントを管理する機能の操作、および操作画面の設定方法について説明しています。 |
| コラボスペースのヘルプ | コラボスペースで、タスクの作成、メッセージの登録、および検索などの操作について説明しています。 |
| ワークフローのヘルプ | ワークフローで、ワークフロー定義の作成、公開および起動する操作、作業を実行する操作について説明しています。 |
| ドキュメント一括操作ツール説明書 | Microsoft Excelを使って、ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理する操作について説明しています。 |
| デスクトップクライアント セットアップガイド | デスクトップクライアントのセットアップ方法について説明しています。 |
| デスクトップクライアント 操作説明書 | デスクトップクライアントで、ドキュメント管理サービスのフォルダーやドキュメントにアクセスする操作方法について説明しています。 |
| 連携フォルダ for DocuWorks セットアップガイド | 連携フォルダ for DocuWorksのセットアップ方法について説明しています。 |
| 連携フォルダ for DocuWorksの ヘルプ (*1) | DocuWorks Deskで、ArcSuiteに登録されているドキュメントを操作する方法について説明しています。 |

* 1: 連携フォルダ for DocuWorks をインストールした DocuWorks Desk のヘルプから参照してください。

本書の使い方

本書は、ArcSuiteの基本的な操作について説明しています。

はじめてArcSuiteを操作するとき基本的な操作の一連の流れをご理解いただくために、本書をお読みください。

■ 本書の構成

本書は、次の章、付録から構成されています。

1 ログ管理アプリケーションの概要

ログ管理アプリケーションの概要について説明しています。

2 ログ管理アプリケーションを使うための準備

ログ管理アプリケーションを使うための準備について説明しています。

3 ログ管理アプリケーションの操作

ログ管理アプリケーションの操作方法について説明しています。

4 ログ収集ツールの使い方

ログ管理アプリケーションの一括ログ収集と同じ機能をコマンドで実行する「ログ収集ツール」の使い方と、取得できるログの種類について説明しています。

付録

ログ管理アプリケーションで取得できる操作ログの項目についての説明と、操作ログの項目である「操作識別子」、「クライアント操作識別子」について説明しています。

■ 本書の表記

・ 本書では、次の記号を使用しています。

| | |
|-----------|---|
| < > キー | キーボードのキーを表します。 例：<Enter>キーを押します。 |
| [] | 画面に表示されるメニュー、ボタン、項目を表します。 例：[新規作成] をクリックします。 |
| [] | 同一マニュアル内の参照箇所を表します。 また、強調する用語やメッセージも表します。 例：「1 概要」 「名前が指定されていません。」と表示されます。 |
| [] | 参照するマニュアルの名前を表します。 例：『システム管理者ガイド』 |
| { } | ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：[{ユーザー名}] をクリックします。 |
| > | メニューやWebページの階層を表します。 例：[システムとセキュリティ] > [管理ツール] |
| 注記 | 一般的な注意事項を表します。 |
| 補足 | 機能や操作に関する補足説明を表します。 |
| 参照 | 参照する事項があることを表します。 |

| | |
|---------------|--|
| <u> </u> | 参照先タイトルやページへのリンクがあることを表します。 例： 「1 概要」 (P.6) |
|---------------|--|

- ・ コマンドラインを次のように表記しています。

| | |
|-------|---|
| abc | 画面に表示される文字列、またはユーザーが入力する文字列を表します。 例： showDrawerInformation |
| {abc} | ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例： cabinetId {or RETURN} = {キャビネットID} |

- ・ Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
- ・ Windows Server 2016 または Windows Server 2019 がインストールされたコンピューターを「サーバー」と表記しています。
- ・ パーソナルコンピューターを「PC」と表記しています。
- ・ ArcSuite がインストールされているサーバーまたは PC を「ホスト」と表記しています。
- ・ お使いの環境によって、マニュアルに記載の画面と実際の画面が異なることがあります。
- ・ 特に表記がない場合の製品のバージョン番号は「4.0」です。

目次

| | | |
|----------|-------------------------------------|----|
| 1 | ログ管理アプリケーションの概要 | |
| 1.1 | ログ管理アプリケーションとは | 11 |
| 1.1.1 | ArcSuite でのログの種類 | 12 |
| 1.2 | ログ管理アプリケーションでできること | 13 |
| 1.2.1 | 認証ログおよび操作ログの表示 | 13 |
| 1.2.2 | 操作ログの取得 | 13 |
| 1.2.3 | 保守情報の一括取得 | 14 |
| 2 | ログ管理アプリケーションを使うための準備 | |
| 2.1 | 操作ログおよび認証ログを表示するための準備 | 16 |
| 2.2 | 操作ログを取得するための準備の流れ | 17 |
| 2.3 | ログを記録するときに注意すること | 18 |
| 2.4 | ドキュメント管理サービス管理アプリケーションの起動と終了 | 19 |
| 2.4.1 | ドキュメント管理サービス管理アプリケーションとは | 19 |
| 2.4.2 | ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版を起動する | 20 |
| 2.4.3 | ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版を終了する | 21 |
| 2.5 | サービスでの操作ログの初期化 | 22 |
| 2.5.1 | 操作ログを初期化する | 22 |
| 2.6 | キャビネットで操作ログを取得するための設定 | 24 |
| 2.6.1 | キャビネットに操作ログを設定する | 24 |
| 2.6.2 | アカウントログを記録しない設定にする | 28 |
| 2.7 | システムプロパティで追加する設定パラメーター | 30 |
| 2.7.1 | 設定パラメーターを追加する | 31 |
| 3 | ログ管理アプリケーションの操作 | |
| 3.1 | ログ管理アプリケーションの起動と終了 | 34 |
| 3.1.1 | ログ管理アプリケーションを起動する | 34 |
| 3.1.2 | ログ管理アプリケーションを終了する | 34 |
| 3.2 | ログの表示方法 | 35 |
| 3.2.1 | 認証ログを表示する | 35 |
| 3.2.2 | 操作ログを表示する | 37 |
| 3.2.3 | ログ表示を操作する | 39 |
| | 表示された内容をフィルターに追加する | 39 |
| | 表示されている内容を CSV 出力する | 39 |
| | プロパティを表示する | 40 |
| 3.3 | 操作ログの取得方法 | 41 |
| 3.4 | 保守情報を一括取得する方法 | 43 |
| 4 | ログ収集ツールの使い方 | |
| 4.1 | ログ収集ツールとは | 46 |
| 4.2 | ログ収集ツールで取得できるログの種類 | 47 |
| 4.2.1 | ArcSuite ログ収集 | 47 |
| | 収集内容 | 47 |
| | 収集期間 | 48 |
| 4.2.2 | データベースログ収集 | 48 |

| | | |
|-------|-------------------------|----|
| | 収集内容 | 48 |
| | 収集期間 | 48 |
| 4.2.3 | ホスト情報の収集..... | 49 |
| | 収集内容 | 49 |
| | 収集期間 | 50 |
| 4.2.4 | Windows イベントログの収集 | 50 |
| | 収集内容 | 50 |
| | 収集期間 | 50 |
| 4.2.5 | レジストリーの収集 | 51 |
| | 収集内容 | 51 |
| | 収集期間 | 51 |
| 4.2.6 | ログ収集ツールのログ | 51 |
| 4.3 | ログ収集ツールの使い方 | 52 |

付録

| | | |
|--------|---------------------------------------|----|
| 付録A | 操作ログの見方 | 55 |
| | 1つの操作に対して複数のログが記録される場合 | 55 |
| | ジョブグループIDおよびクライアント操作識別子を記録しない場合 | 56 |
| 付録 A.1 | 操作ログの項目 | 56 |
| | 付録 A.1.1 操作ログのオブジェクト特定属性値 | 59 |
| 付録 A.2 | 操作ログの操作識別子 | 61 |
| 付録 A.3 | 操作ログのクライアント操作識別子..... | 63 |
| 付録 A.4 | 操作ログのクライアント操作情報 | 66 |

1 ログ管理アプリケーションの概要

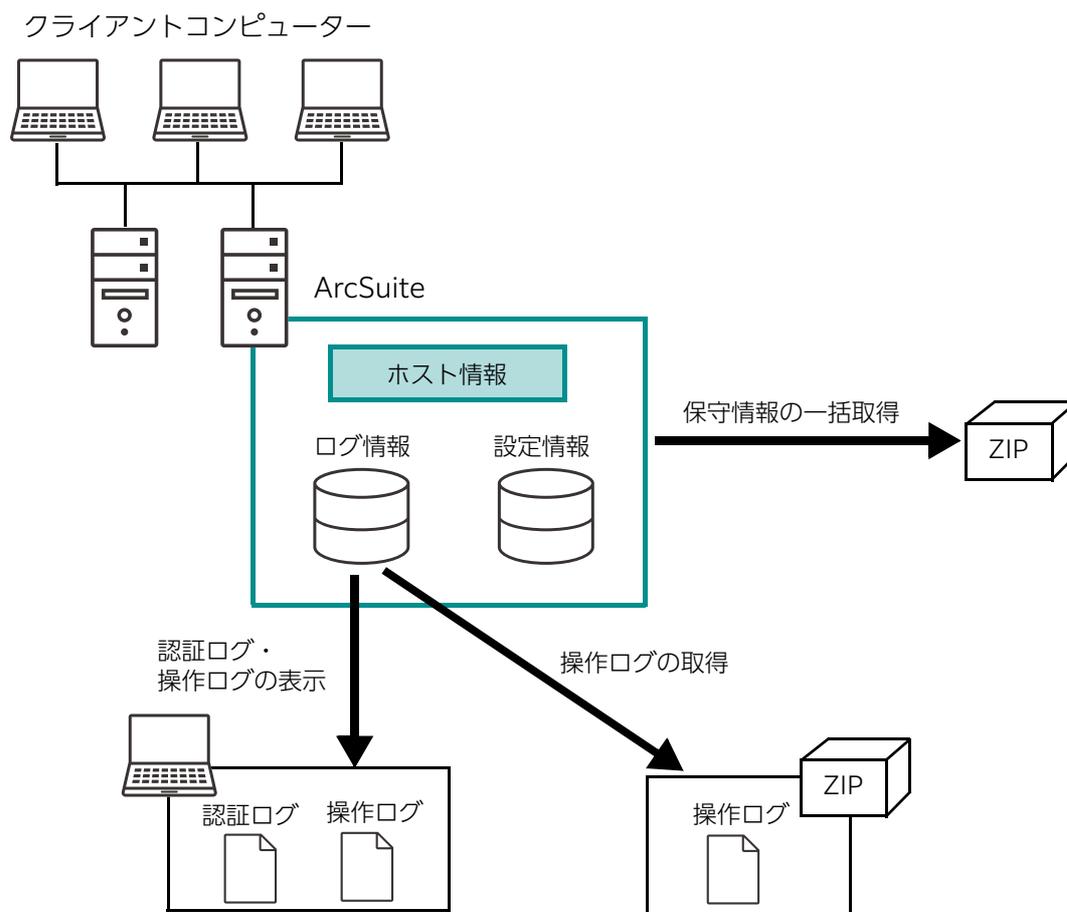
ログ管理アプリケーションの概要を説明します。

1.1 ログ管理アプリケーションとは

「ログ管理アプリケーション」は、ArcSuiteのログを取得、表示、管理するためのシステム管理機能です。

「ログ管理アプリケーション」では、次のことができます。

- ・ ArcSuite に「誰がログインしたか」、および ArcSuite 上の文書に対して「誰が、いつ、何をしたか」を Web ブラウザー上で一覧として表示できます。
- ・ 監査や利用状況の分析のため、ArcSuite 上の文書に対して「誰が、いつ、何をしたか」を保存して確認できます。
- ・ 保守に必要な情報を一括で取得できます。



補足 「ホスト情報」は、ArcSuite がインストールされているサーバーまたは PC の情報を表したものです。

1.1.1 ArcSuite でのログの種類

「ログ管理アプリケーション」を使ったログの取得について説明する前に、ArcSuiteで記録しているログについて説明します。

ArcSuiteで記録しているログには、次のものがあります。

それぞれ、ログ管理アプリケーションからも取得できます。

表 :ArcSuite で記録しているログ

| ログの名称 | 説明 | ログの取得 |
|---------|--|--|
| 操作ログ | 操作記録用のログです。アカウントログと同様、利用状況の把握や、証跡保存用に使われます。 | 操作ログの表示、操作ログのダウンロードが可能 補足 操作ログを「記録する」設定にしてあるキャビネットのみ |
| 認証ログ | 認証情報のログです。利用状況の把握に使われます。 | 認証ログの表示、認証ログのダウンロード（表示したあとCSV形式でダウンロード）が可能 一括ログ収集でファイルとして取得可能 |
| システムログ | システム管理用のログで、システムの動作状況や管理操作を記録します。設定は不要で常に記録されます。 | 一括ログ収集で取得可能 |
| アカウントログ | 操作記録用のログです。利用状況の把握や、証跡保存用に使われます。 | 一括ログ収集で取得可能 |
| セッションログ | セッションの確立と終了を記録します。 | 一括ログ収集で取得可能 |
| トレースログ | 保守用のログで、問題調査用に特別に設定されます。通常は記録されません。 | 一括ログ収集で取得可能 補足 トレースログをoff以外の設定にしてある場合のみ |

1.2 ログ管理アプリケーションでできること

「ログ管理アプリケーション」では、次のことができます。

- ・ [認証ログおよび操作ログの表示](#)

ログインサーバーが記録しているログイン、ログアウトの情報、およびドキュメント管理サービスが記録している操作ログを表示します。

- ・ [操作ログの取得](#)

ドキュメント管理サービスが記録している操作ログを取得します。

- ・ [保守情報の一括取得](#)

ArcSuite がインストールされているホストのログ、設定情報、ホスト情報を、ログ収集ツールを呼び出すことで取得します。

補足 「ログ収集ツール」とは、コマンドを実行して保守情報を一括で取得するツールです。ArcSuite サーバーにインストールされています。

ログ管理アプリケーションを使用すると、ArcSuiteサーバーにサインインしなくても、ログを取得できます。

1.2.1 認証ログおよび操作ログの表示

共通ログインサーバーが記録しているログイン、ログアウトの情報である認証ログと、ドキュメント管理サービスが記録している操作ログを表示できます。

ログの一覧を表示する機能、一覧として表示したログの詳細な情報を表示する機能、一覧として表示した内容をCSV出力する機能があります。

1.2.2 操作ログの取得

ArcSuiteでは、操作を記録するためのログに、「アカウントログ」と「操作ログ」があります。

アカウントログは操作の記録がファイルに出力され、操作ログはArcSuiteのデータベースに書き込まれます。また、記録できる項目の数は、アカウントログよりも操作ログの方が、より多くの項目を記録できます。

「ログ管理アプリケーション」では、ArcSuiteのデータベースに書き込まれた操作ログを、ファイルに出力して取得できます。

操作ログとアカウントログは、キャビネットごとに「記録する/しない」を選択できます。ただし、操作ログとアカウントログは、どちらかしか記録できません。キャビネットごとに、どちらを記録するか、設定します。「ログ管理アプリケーション」で操作ログを取得する前に、操作ログを「記録する」設定にしておきます。

- 参照**
- ・ 操作ログとして記録される項目については、[\[付録 A 操作ログの見方\] \(P.55\)](#) を参照してください。
 - ・ キャビネットごとに操作ログを「記録する/しない」を設定する方法については、[\[2 ログ管理アプリケーションを使うための準備\] \(P.15\)](#) を参照してください。
 - ・ 操作ログについては、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

1.2.3 保守情報の一括取得

保守の問い合わせなどで、稼働しているサーバー環境などの情報を、正しく、もれなく、取得したい場合に、ArcSuiteサーバーにサインインしないで、保守情報を一括で取得できます。

ArcSuiteでは、「ログ収集ツール」コマンドを実行して、保守情報を一括で取得できます。「ログ管理アプリケーション」では、内部で「ログ収集ツール」を実行しているため、管理アプリケーションから、保守情報を一括で取得できます。

保守情報には、ログのほかに、サーバー環境などのシステム情報が取得できます。

- 参照**
- ・ログ収集ツールについては、[\[4 ログ収集ツールの使い方\] \(P.45\)](#) を参照してください。
 - ・ログ管理アプリケーションの「保守情報の一括収集」で取得できるログの種類やパスなどは、「ログ収集ツール」で取得できるものと同じです。ログについては、[\[4.2 ログ収集ツールで取得できるログの種類\] \(P.47\)](#) を参照してください。

2 ログ管理アプリケーションを使うための準備

「ログ管理アプリケーション」を使うための準備について説明します。

2.1 操作ログおよび認証ログを表示するための準備

ログ管理アプリケーションで操作ログおよび認証ログを表示するためには、ログインサーバー管理アプリケーションで認証ログデータベース管理の初期化が必要です。

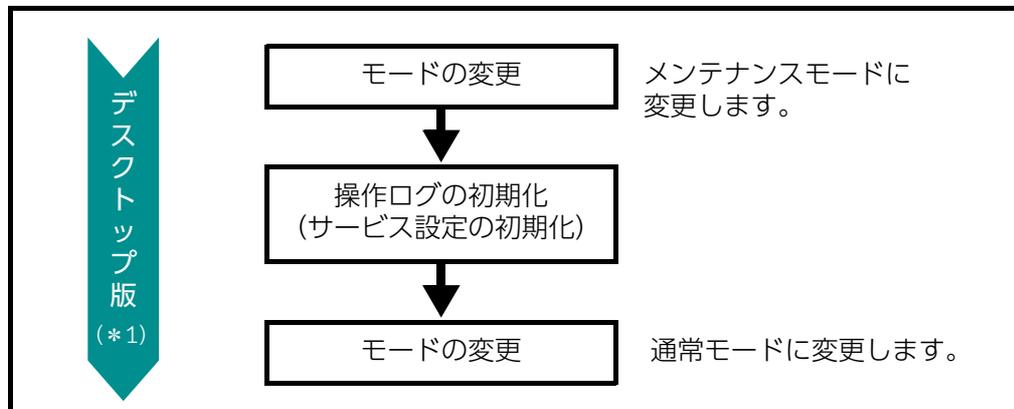
参照 認証ログデータベース管理の初期化については、『ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ』を参照してください。

2.2 操作ログを取得するための準備の流れ

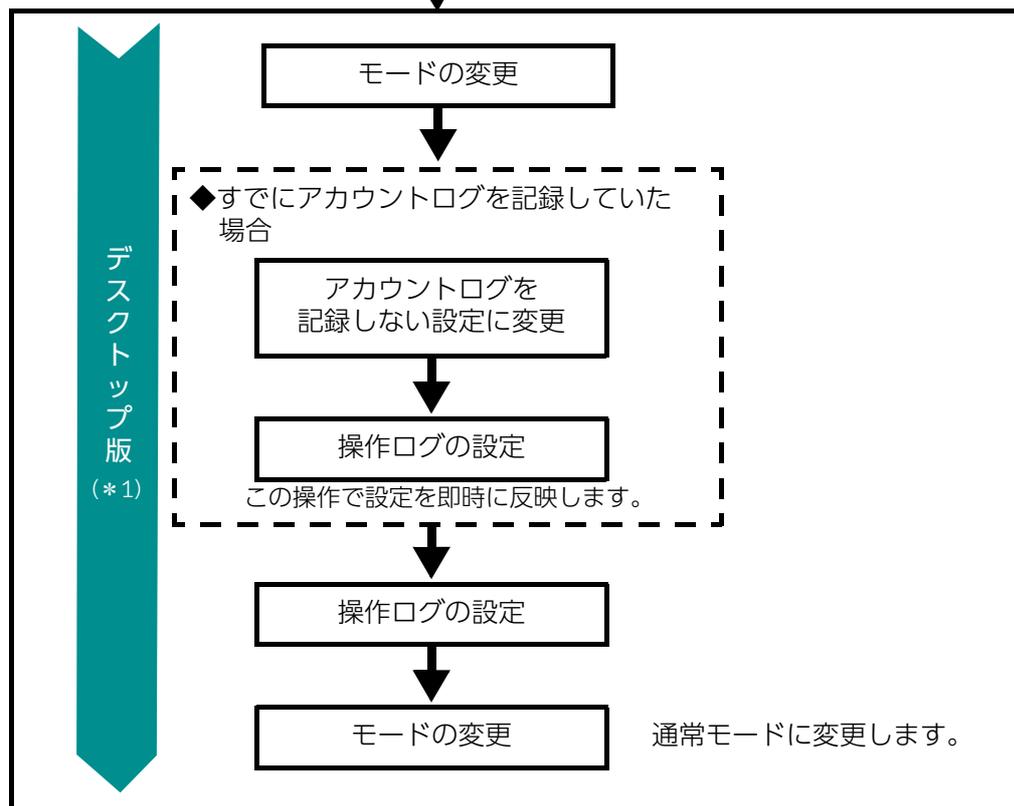
ログ管理アプリケーションで操作ログを取得するためには、ログを記録したいキャビネットについて、操作ログを記録する設定が必要です。ドキュメント管理サービス管理アプリケーションを使って、「サービスの設定」および「キャビネットの設定」をします。

操作ログを使うための準備の流れは、次のとおりです。

サービスの設定



キャビネットの設定



*1：「ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版」を表します。

- 参照**
- ・操作ログを使うためのサービスの設定方法については、[\[2.5 サービスでの操作ログの初期化\]](#) (P.22) を参照してください。
 - ・操作ログを使うためのキャビネットの設定方法については、[\[2.6 キャビネットで操作ログを取得するための設定\]](#) (P.24) を参照してください。
 - ・アカウントログを記録しない設定については、[\[2.6.2 アカウントログを記録しない設定にする\]](#) (P.28) を参照してください。

2.3 ログを記録するときに注意すること

ログを記録する運用を開始したあと、ログの表領域を作成し、ログの記録を開始するまでの操作では、次のことに注意してください。

■ 操作ログの表領域を作成するとき

◆ 運用に応じた表領域のサイズを設定する

操作ログの表領域は、ドキュメント管理サービスのサービス全体で使用します。

操作ログの表領域を作成するときは、運用に応じて表領域のサイズを設定してください。

注記 運用中に操作ログの表領域が不足すると、サービスが停止することがあります。

参照 操作ログの表領域を作成する手順については、[\[2.5.1 操作ログを初期化する\]](#) (P.22) を参照してください。

■ 操作ログおよび認証ログを記録するとき

操作ログの表領域の使用率が100%になると、サービスが停止することがあります。また、認証ログの表領域の使用率が100%になると、それ以降の認証ログは記録されずに、Windowsのイベントログにエラーが記録されます。使用率が100%にならないように、定期的に確認してください。

◆ 表領域の使用率を定期的に確認する

表領域のサイズ、ログの使用量、および使用率は、次の手順で確認できます。

・ 操作ログの場合

「ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版」で、[サービス操作] > [操作ログ] > [サービス設定の表示]、または「データベース表領域管理ツール」を起動して、[操作ログのサービス設定の初期化] で入力した、操作ログの「表領域名」を確認します。

・ 認証ログの場合

「データベース表領域管理ツール」を起動して、「NIM_LOGIN_LOG」を確認します。

参照 ・ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版での手順については、『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』を参照してください。

・「データベース表領域管理ツール」については、『セットアップガイド』を参照してください。

◆ 操作ログのエクスポートおよび削除を定期的に実行する

定期的に操作ログのエクスポートおよび削除を実行してください。操作ログをエクスポートして削除すると、表領域が再利用されるため、表領域の不足を回避できます。ただし、このとき表領域の使用量および使用率は更新されません。

参照 操作ログをエクスポートおよび削除する手順については、『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』を参照してください。

◆ 認証ログの削除を実行する

認証ログを削除すると、表領域が再利用されるため、表領域の不足を回避できます。ただし、このとき表領域の使用量および使用率は更新されません。

参照 認証ログを削除する手順については、『ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ』を参照してください。

2.4 ドキュメント管理サービス管理アプリケーションの起動と終了

2.4.1 ドキュメント管理サービス管理アプリケーションとは

「ドキュメント管理サービス管理ツール」は、サーバー、サービス、キャビネット、およびドロワーを管理するためのツールです。

ドキュメント管理サービス管理ツールには、3つの種類があります。「ドキュメント管理サービス管理ツール」に属している「ドキュメント管理サービス管理アプリケーション」には、さらに「デスクトップ版」と「Web版」があります。

表：ドキュメント管理サービス管理ツールの種類

| 名称 | 操作 | 実行するための条件 |
|--------------------------------|--------------------|----------------------------|
| ドキュメント管理サービス管理コマンド | コマンドプロンプトで、コマンドを実行 | ドキュメント管理サービスがインストールされたサーバー |
| ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版 | アプリケーションの画面 | サービス系コンポーネントがインストールされたサーバー |
| ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版 | Webアプリケーション | Webブラウザが起動できるPC |

補足 「ドキュメント管理サービス管理コマンド」は、ドキュメント管理サービスがインストールされたサーバーでだけ実行できます。「ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版」は、通常、ドキュメント管理サービスがインストールされたサーバーで実行できます。運用に応じて、ほかの PC にもインストールできます。

参照

- ドキュメント管理サービス管理アプリケーションをインストールできるサーバーまたは PC については、『セットアップガイド』を参照してください。
- 「ドキュメント管理サービス管理コマンド」の使用方法、「ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web 版」の使用方法については、それぞれ『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』、『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web 版のヘルプ』を参照してください。

本書では、「ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版」を使って、「ログ管理アプリケーション」を使うための手順について説明します。

ドキュメント管理サービス管理ツールを使えるのは、サービス管理者です。ただし、キャビネットの一部の管理操作については、キャビネット管理者もドキュメント管理サービス管理ツールを使えます。

参照 「ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版」については、『ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ』を参照してください。

2.4.2 ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版を起動する

「ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版」を起動する手順は、次のとおりです。

1. デスクトップ上に表示されている「ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版」のショートカットアイコンをダブルクリックします。



[ログイン] 画面が表示されます。

2. ドキュメント管理サービスのサービス管理者、またはキャビネット管理者の [ユーザー名]、および [パスワード] を入力します。
3. [サービス] で、サービスを選択します。
4. [OK] をクリックします。

ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版が起動し、[ドキュメント管理サービス管理アプリケーション] の [サービス] タブのページが表示されます。

注記 Windows の機能であるユーザーアカウント制御 (UAC) によって、管理アプリケーションの実行ファイルにアクセスできなったり、起動に失敗したりすることがあります。

この場合、運用上のセキュリティポリシーに沿って、管理者特権で管理コマンドの実行ファイルにアクセスして実行するための措置を行う必要があります。

UAC に関する設定については、『セットアップガイド』を参照してください。

補足 次のファイルをダブルクリックして、「ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版」を起動することもできます。

```
{ArcSuite をインストールしたドライブ} : %Program Files%FUJIFILM%ArcSuite%  
Service%Components%Repository%bin%dradmingui.bat
```

2.4.3 ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版を終了する

1. ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版で、次の操作を実行します。表示しているタブや、操作しているオブジェクトによって、選択するメニューの表示が異なります。

◆ [サービス] タブのページ、または [サーバー] タブのページを表示しているとき

(1) [操作] メニューの [閉じる] を選択します。

◆ [サービス] タブのページで [サービス] アイコンを選択しているとき

(1) [サービス操作] メニューの [閉じる] を選択します。

◆ [サービス] タブのページで [キャビネット] アイコンを選択しているとき

(1) [キャビネット操作] メニューの [閉じる] を選択します。

◆ [サービス] タブのページで [ドロー] オブジェクトを選択しているとき

(1) [ドロー操作] メニューの [閉じる] を選択します。

◆ [サーバー] タブのページで [管理サーバー] オブジェクトを選択しているとき

(1) [管理サーバー操作] メニューの [閉じる] を選択します。

◆ [サーバー] タブのページで [リポジトリサーバー] オブジェクトを選択しているとき

(1) [リポジトリサーバー操作] メニューの [閉じる] を選択します。

ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版の終了を確認する画面が表示されます。

補足 画面の右上にある [×] をクリックすることでも、終了できます。

2. [はい] をクリックします。

ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版が終了します。

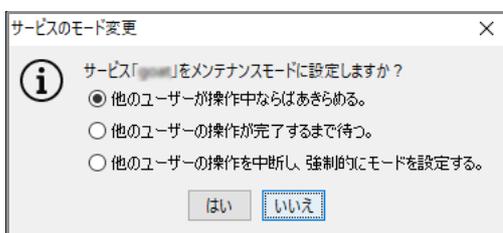
2.5 サービスでの操作ログの初期化

操作ログのサービス設定を初期化する手順を説明します。

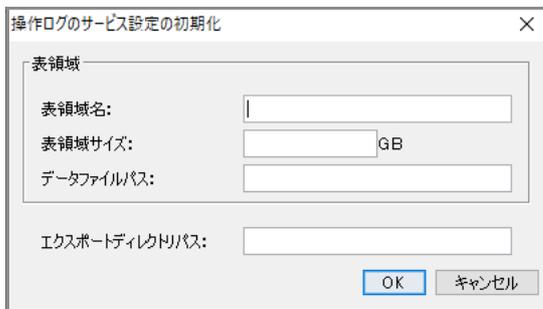
サービス全体の操作ログの設定情報を確認できるのは、サービス管理者だけです。

2.5.1 操作ログを初期化する

1. [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション] の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [サービス] を選択します。
2. メニューバーの [サービス操作] > [サービスのモード変更] を選択します。
[サービスのモード変更] 画面が表示されます。
3. 通常モードからメンテナンスモードに変更します。



- (1) [サービスのモード変更] 画面で、ラジオボタンを選択します。
- (2) [はい] をクリックします。
手順 1 で選択したラジオボタンの条件を満たした場合、サービスのモードがメンテナンスモードに変更されます。
4. メニューバーの [サービス操作] > [操作ログ] > [サービス設定の初期化] を選択します。[操作ログのサービス設定の初期化] 画面が表示されます。



補足 すでに初期化が終わっている場合は、[操作ログのサービス設定の初期化] 画面が表示されず、「操作ログのサービス設定は、すでに初期化されています」という画面が表示されます。

5. [表領域名] に、操作ログを記録するための表領域名を入力します。

補足

- ・ 必須の入力項目です。
- ・ 先頭の文字は英字を指定する必要があります。
- ・ 2文字目以降は英数字または「_ (アンダースコア)」の文字列を指定できます。
- ・ 文字列の長さの最大値は、30バイトです。
- ・ "SYS_" ではじまる文字列、およびデータベースの予約語となっている文字列は指定できません。
- ・ 英小文字で設定しても、大文字化されて作成されます。たとえば、abc と指定しても作成される表領域は ABC になります。

6. [表領域サイズ] に、操作ログを記録するための表領域のサイズを入力します。

- 補足**
- ・ 必須の入力項目です。
 - ・ 1 ～ 32 までの数値を指定できます。

注記 ログの記録に失敗するとサービスが停止してしまうため、運用にあった大きさを指定してください。

7. [データファイルパス] に、作成する表領域に対応するデータファイルパスを指定します。

- 補足** 入力を省略すると「{表領域名}.dbf」を指定したものとみなされます。
相対パスはデフォルトのデータファイル配置先（サービス用表領域のデータファイルが格納されているディレクトリー）を基準とします。

8. [エクスポートディレクトリパス] に、操作ログデータのエクスポート先のディレクトリパスを絶対パスの形式で指定します。 この項目は必ず入力してください。

- 補足** 指定されたパスにディレクトリーが存在しないときは、自動的に作成されます。

9. [OK] をクリックします。

正常終了した場合は、初期化完了の確認画面が表示されます。

10. [OK] をクリックします。

確認画面が閉じます。

11. メニューバーの [サービス操作] > [サービスのモード変更] を選択します。

[サービスのモード変更] 画面が表示されます。

12. [はい] をクリックします。

通常モードに戻ります。

注記 ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版では、データベース表領域の作成と削除の機能だけを提供しています。
データファイルの追加や、表領域のサイズの変更は、「データベース表領域管理ツール」でできます。

参照 「データベース表領域管理ツール」については、『セットアップガイド』を参照してください。

補足 作成した表領域は、次のオプションで構成されます。

| オプション項目 | 設定値 |
|------------|---------------------------|
| 自動拡張モード | 設定する（作成時に指定したサイズの倍まで拡張可能） |
| EXTENTの最大数 | 無制限（サイズの制限は超えられない） |
| ロギング | 有効 |
| REUSE | 無効 |

2.6 キャビネットで作成ログを取得するための設定

キャビネットに操作ログを設定する手順を説明します。

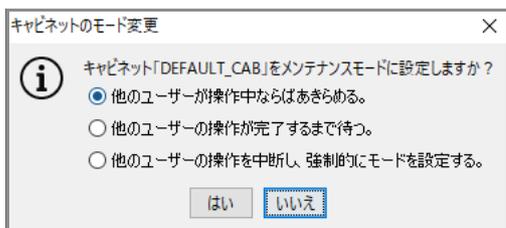
キャビネットに操作ログを設定できるのは、サービス管理者だけです。

- 補足**
- ・操作ログのサービス設定が初期化されていない場合は、操作ログのサービス設定を初期化する必要があります。
 - ・アカウントログを記録する設定にした場合、操作ログは記録できません。

参照 操作ログのサービス設定を初期化する手順は、[\[2.5 サービスでの操作ログの初期化\] \(P.22\)](#) を参照してください。

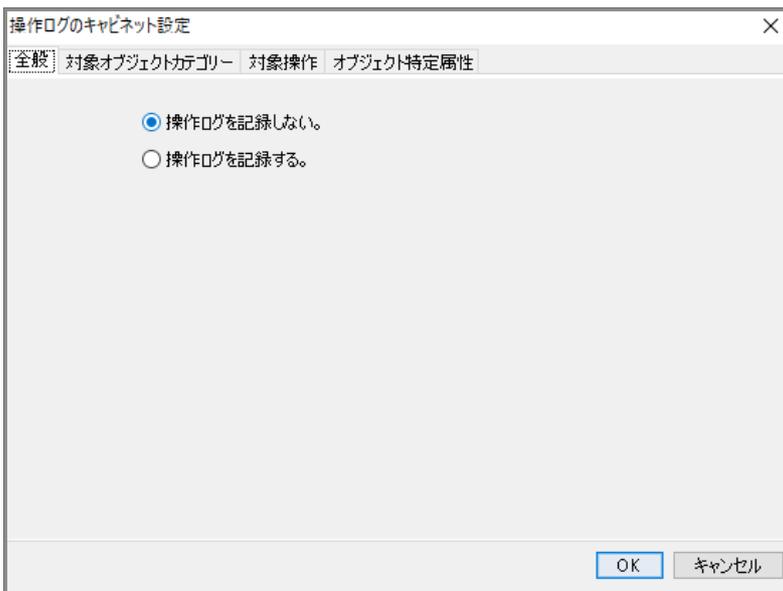
2.6.1 キャビネットに操作ログを設定する

1. [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション] の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [キャビネット] を選択します。
2. 通常モードの場合は、メンテナンスモードに変更します。
 - (1) メニューバーの [キャビネット操作] > [キャビネットのモード変更] を選択します。
[キャビネットのモード変更] 画面が表示されます。

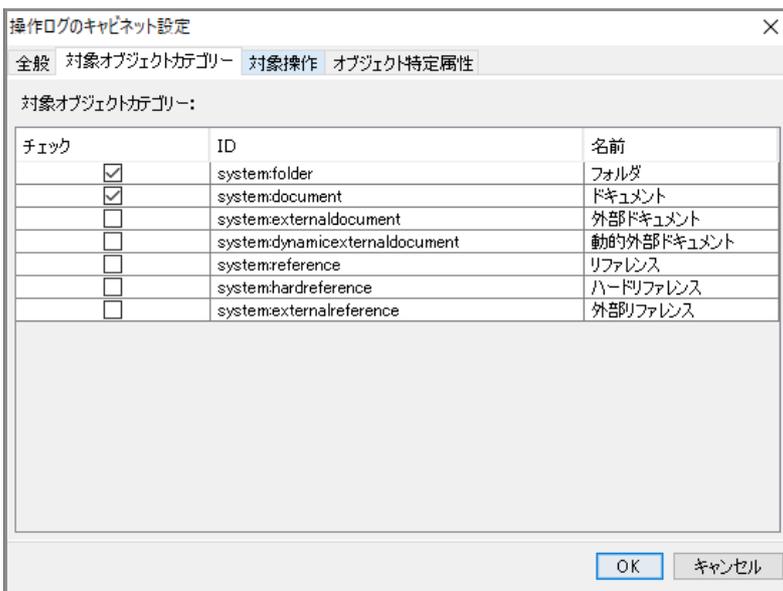


- (2) [キャビネットのモード変更] 画面で、ラジオボタンを選択します。
 - (3) [はい] をクリックします。
手順 2 で選択したラジオボタンの条件を満たした場合、キャビネットのモードがメンテナンスモードに変更されます。
3. [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション] の [サービス] タブのページで、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。

4. メニューバーの [キャビネット操作] > [操作ログ] > [キャビネット設定] を選択します。
[操作ログのキャビネット設定] 画面 – [全般] タブのページが表示されます。



5. 操作ログを記録するかどうかを、ラジオボタンで選択します。
6. [対象オブジェクトカテゴリ] タブをクリックします。
[操作ログのキャビネット設定] 画面 – [対象オブジェクトカテゴリ] タブのページが表示されます。



7. 操作ログの記録対象とするオブジェクトカテゴリの [チェック] にチェックマークを付けます。

8. [対象操作] タブをクリックします。

[操作ログのキャビネット設定] 画面－ [対象操作] タブのページが表示されます。

| チェック | 対象操作 |
|-------------------------------------|-------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> | 新規登録 |
| <input type="checkbox"/> | 取得(属性のみ) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 取得(コンテンツ含む) |
| <input type="checkbox"/> | 表示処理用の取得(属性のみ) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 表示処理用の取得(コンテンツ含む) |
| <input type="checkbox"/> | 印刷処理用の取得(属性のみ) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 印刷処理用の取得(コンテンツ含む) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 変更(属性のみ) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 変更(コンテンツ含む) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 削除 |
| <input type="checkbox"/> | 検索 |
| <input type="checkbox"/> | 一覧 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | コピー(コピー元) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | コピー(コピー先) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 移動(キャビネット内) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 版管理開始 |

9. 操作ログの記録対象とする操作の [チェック] にチェックマークを付けます。

10. [オブジェクト特性属性] タブをクリックします。

[操作ログのキャビネット設定] 画面－ [オブジェクト特性属性] タブのページが表示されます。

| 属性ID | 属性名 | 属性型 | 型種別 |
|------------------------|----------|----------------|-----|
| system:contenttype | コンテンツタイプ | 文字列型 (string) | 単値 |
| system:editionlabel | 版名称 | 文字列型 (string) | 単値 |
| system:editionnum... | 版番号 | 整数型 (integer) | 単値 |
| system:filename | ファイル名 | 文字列型 (string) | 単値 |
| system:latesteditio... | 最新版フラグ | ブール型 (boolean) | 単値 |
| system:name | 名前 | 文字列型 (string) | 単値 |

11. 操作に応じて、次の手順に進みます。

◆ オブジェクト特定属性を追加する

(1) [追加] をクリックします。

[属性 ID 選択] 画面が表示されます。

(2) オブジェクト特定属性にする属性を選択します。

(3) [OK] をクリックします。

[操作ログのキャビネット設定] 画面－ [オブジェクト特性属性] タブのページに戻ります。オブジェクト特定属性一覧に選択した特定属性が表示されます。

(4) 手順 12 に進みます。

◆ オブジェクト特定属性を削除する

- (1) 特定属性一覧から、削除する特定属性を選択します。
- (2) [削除] をクリックします。
選択した特定属性が削除されます。
- (3) 手順 [12](#) に進みます。

◆ オブジェクト特定属性をファイルから読み込む（インポート）

補足 ファイルを読み込む場合は、あらかじめ設定ファイルを用意しておく必要があります。

参照 設定ファイルについては、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

- (1) [インポート] をクリックします。
[ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 追加する属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。
設定ファイルの属性が、特定属性一覧に表示が追加されます。
- (5) 手順 [12](#) に進みます。

◆ オブジェクト特定属性をファイルに保存する（エクスポート）

- (1) [エクスポート] をクリックします。
[ファイルの選択] 画面が表示されます。
- (2) 保存するオブジェクト特定属性の設定ファイル名を選択します。
- (3) エンコーディングを、プルダウンメニューから選択します。
- (4) [OK] をクリックします。
設定されている特定属性が、設定ファイルとして保存されます。
ドキュメントスペース管理アプリケーションを起動すると、[ドキュメントスペース管理] 画面が表示されます。
- (5) 手順 [12](#) に進みます。

補足 ここで設定したオブジェクト特定属性が、操作ログに記録されます。

12. [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション] の [サービス] タブのページに戻ります。

注記 操作対象のキャビネットに、すでにアカウントログが記録される設定になっている場合は、操作ログを「記録する」にして [OK] をクリックするとエラーが表示されます。その場合は、まずアカウントログを「記録しない」設定に変更してから、再度この手順を実行してください。

参照 アカウントログの設定を解除する手順については、[\[2.6.2 アカウントログを記録しない設定にする\] \(P.28\)](#) を参照してください。

13. メニューバーの [キャビネット操作] > [キャビネットのモード変更] を選択します。

[キャビネットのモード変更] 画面が表示されます。

14. [キャビネットのモード変更] 画面で [はい] をクリックします。

通常モードに戻ります。

2.6.2 アカウントログを記録しない設定にする

操作ログとアカウントログは、どちらか一方しか記録できません。ログ管理アプリケーションを利用するためには、操作ログを記録する必要があります。

[\[2.6.1 キャビネットに操作ログを設定する | \(P.24\)\]](#) の設定でエラーになる場合、操作対象キャビネットは、すでにアカウントログを「記録する」設定になっています。

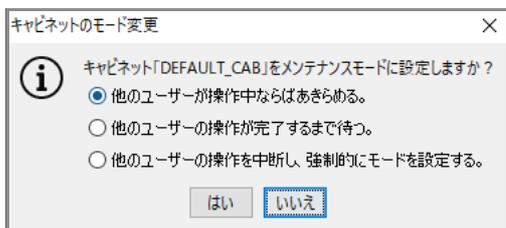
アカウントログを記録しない設定にする手順は次のとおりです。

1. [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション] の [サービス] タブのページで、左側の [階層ツリー表示] エリアから [キャビネット] を選択します。

2. 通常モードの場合は、メンテナンスモードに変更します。

(1) メニューバーの [キャビネット操作] > [キャビネットのモード変更] を選択します。

[キャビネットのモード変更] 画面が表示されます。



(2) [キャビネットのモード変更] 画面で、ラジオボタンを選択します。

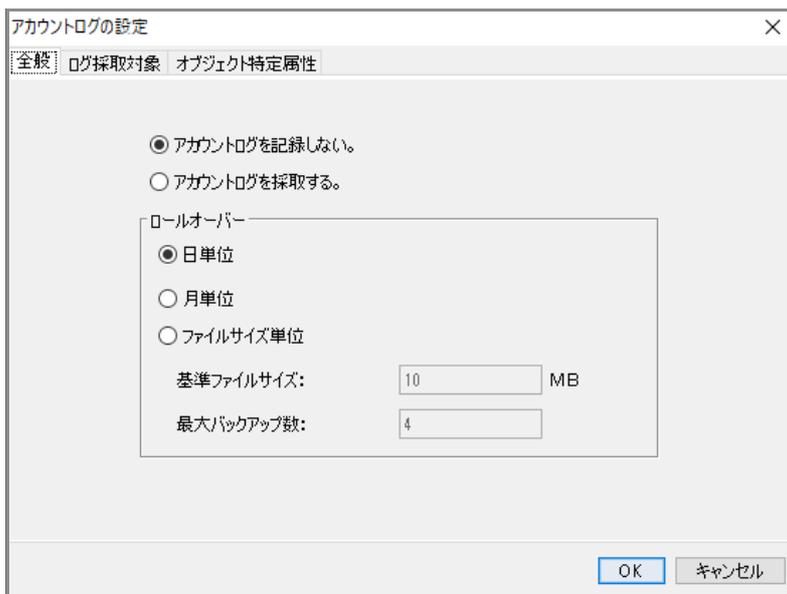
(3) [はい] をクリックします。

手順 2 で選択したラジオボタンの条件を満たした場合、キャビネットのモードがメンテナンスモードに変更されます。

3. [ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション] の [サービス] タブのページで、左側のツリーまたは右側のテーブルに一覧されるキャビネットから、操作対象のキャビネットを選択します。

4. メニューバーの [キャビネット操作] > [アカウントログ] > [アカウントログの設定] を選択します。

[アカウントログの設定] 画面 - [全般] タブのページが表示されます。

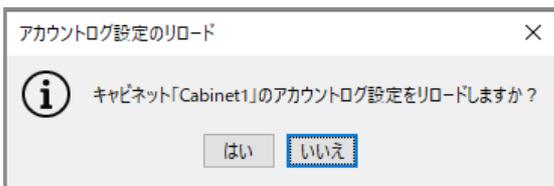


5. [アカウントログを記録しない。] を選択します。

6. [OK] をクリックします。

[ドキュメント管理サービス 管理アプリケーション] の [サービス] タブのページに戻ります。

7. 手順 7 までで設定した内容を即時に反映するために、メニューバーの [キャビネット操作] > [アカウントログ] > [アカウントログ設定のリロード] を選択します。
[アカウントログ設定のリロード] 画面が表示されます。



8. [はい] をクリックします。
アカウントログの設定が即時に反映されます。
9. メニューバーの [キャビネット操作] > [キャビネットのモード変更] を選択します。
[キャビネットのモード変更] 画面が表示されます。
10. [キャビネットのモード変更] 画面で [はい] をクリックします。
通常モードに戻ります。

2.7 システムプロパティで追加する設定パラメーター

ログ管理アプリケーションの「操作ログ表示」機能、「認証ログ表示」機能、「操作ログ取得」機能、および「一括ログ収集」機能で使用可能な設定パラメーターについて説明します。

ログ管理アプリケーションの機能に制限を付けたい場合に設定します。

これらのパラメーターは何も設定しないときは、デフォルト値のまま動作します。

また、設定値として指定可能な範囲を超えた場合や、不正な値が設定された場合には、システムログにエラーを記録し、デフォルト値で動作します。

設定できるパラメーターは、次のとおりです。

表：システムプロパティで編集する設定パラメーター

| 名前 | 説明 | 設定値の範囲 | デフォルト値 |
|--|--|---------------------------|-------------|
| com.fujifilm.fb.arcsuite.logadmin.availableClientHosts | 接続可能なクライアントPCのIPアドレス。ログ管理アプリケーションを使用するクライアントPCを制限したい場合に、クライアントPCのIPアドレスを指定します。 | IPアドレス（複数可、1つ以上の空白文字で区切る） | 未設定（制限されない） |
| com.fujifilm.fb.arcsuite.logadmin.lowerLimitHddFreeSpace | ArcSuiteがインストールされているサーバーに必要なハードディスクの空き容量（MB）です。 ログ収集に必要なデフォルトの空き容量がないサーバーで、一時的にログ収集を実行したい場合には、設定値を小さくします。 デフォルト値以上にハードディスクの空き容量を確保しておきたい場合には、設定値を大きくします。 | 1~1,000,000 (1 TB) | 500 MB |
| com.fujifilm.fb.arcsuite.logadmin.toolExecTimeoutSeconds | 一括ログ収集実行時のログ収集ツールの実行タイムアウト秒数です。 処理速度の遅いPCを使っている、収集するログの量が多いなどの理由で、ログの収集に時間がかかってタイムアウトしてしまう場合に、この実行タイムアウト秒数を長くします。 | 60~86,400 (24時間) | 300秒 (5分) |
| com.fujifilm.fb.arcsuite.logadmin.propertyHeight | 【認証ログ表示】画面および【操作ログ表示】画面のプロパティ表示エリアの高さの割合を指定します。 | 0~100 | 50 |
| com.fujifilm.fb.arcsuite.logadmin.cabinetSelectMode | 操作ログを表示するまたは操作ログを取得する場合の、操作対象のキャビネットを指定します。 | idまたはname | id |

2.7.1 設定パラメーターを追加する

設定パラメーターは、リソース管理アプリケーションの [システムプロパティ編集] 画面で追加します。

設定パラメーターを追加する手順は次のとおりです。

1. Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。
URL は、「http:// {ArcSuite サーバーのアドレス} /ArcSuite/」です。
[ログイン] 画面が表示されます。
2. ログインするユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
[ポータル] 画面が表示されます。
3. [システム管理] リンクをクリックします。
[システム管理] 画面が表示されます。
4. [このシステム] に表示されている RMS のリンクをクリックします。
[管理ログイン] 画面が表示されます。
5. リソース管理アプリケーションの管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
6. [ログイン] をクリックします。
[リソース管理アプリケーション] 画面が表示されます。
7. メニューから [システムプロパティ編集] をクリックします。
[システムプロパティ編集] 画面が表示されます。



8. 空白行の左側の入力フィールドに追加したいパラメーターの名前、右側に設定したい値を入力します。
設定済みのパラメーターの値を変更する場合は、設定したいパラメーターの右側に値を入力します。
9. [保存] をクリックします。
編集した内容が保存されます。
10. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
11. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
12. サービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。次の順序で停止します。

補足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを停止します。

- (1) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy
- (2) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
- (3) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register

- (4) ArcSuite Capturing Service Admin
- (5) ArcSuite Capturing Service
- (6) ArcSuite Monitoring Service
- (7) ArcSuite Web Application Service
- (8) ArcSuite Collabo Service
- (9) ArcSuite Repository Service
- (10) ArcSuite Repository Master Admin Service
- (11) ArcSuite kSearchDuo Service
- (12) ArcSuite Full Text Search Service
- (13) ArcSuite Basic Service

13. サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で開始します。

補足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを開始します。

- (1) ArcSuite Basic Service
- (2) ArcSuite Full Text Search Service
- (3) ArcSuite kSearchDuo Service
- (4) ArcSuite Repository Master Admin Service
- (5) ArcSuite Repository Service
- (6) ArcSuite Collabo Service
- (7) ArcSuite Web Application Service
- (8) ArcSuite Monitoring Service
- (9) ArcSuite Capturing Service
- (10) ArcSuite Capturing Service Admin
- (11) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
- (12) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
- (13) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy

3 ログ管理アプリケーションの操作

ログ管理アプリケーションの操作方法について説明します。

3.1 ログ管理アプリケーションの起動と終了

3.1.1 ログ管理アプリケーションを起動する

1. [ポータル] 画面で、[システム管理] リンクをクリックします。
[システム管理] 画面が表示されます。
2. [システム管理] 画面の左側にある [システム管理] から、[ログ管理] をクリックします。
画面の右側に、ログ管理アプリケーションの情報が表示されます。
3. ログ管理アプリケーションのリンクをクリックします。
[管理ログイン] 画面が表示されます。
4. RMS の管理者の [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
注記 起動するためには、RMS の管理者権限が必要です。また、操作ログを取得するためには、ドキュメント管理サービスの管理者権限が必要です。
5. [ログイン] をクリックします。
[ログ管理] 画面が表示されます。

3.1.2 ログ管理アプリケーションを終了する

1. 画面右上の [ログアウト] アイコンをクリックします。
ログアウトし、[ログイン] 画面に戻ります。
2. Web ブラウザーの [×] をクリックします。
管理アプリケーションが終了します。

3.2 ログの表示方法

認証ログまたは操作ログを表示します。

3.2.1 認証ログを表示する

1. [ログ管理] 画面の左側にある [ログ管理] から、[認証ログ表示] をクリックします。画面の右側に、[認証ログ表示] の情報が表示されます。

2. [最大表示件数] に、一覧に表示するログの最大表示件数を入力します。1 ~ 10000 までの範囲で入力できます。
3. 一覧に表示する条件を設定する場合は、 フィルターアイコンをクリックします。

4. [対象期間] の [開始日]、[終了日] を、直接入力するか、横の カレンダーアイコンを選択して設定します。

補足

- ・ デフォルトは空白です。
- ・ 開始日と終了日の日付は、インストールされたサーバーのタイムゾーンで評価されます。

◆ 直接入力する場合

- (1) [YYYY/MM/DD] の形式で入力します。たとえば、2021年1月15日のときは、「2021/01/15」と入力します。

◆ カレンダーアイコンから入力する場合

- (1) カレンダーアイコンをクリックします。
表示されている日付のカレンダーが表示されます。



- (2) 年月を一度に切り替えたい場合は、年月の表示の横にある▼をクリックします。
年月を選択する画面が表示されます。



年月を選択して [OK] をクリックします。[キャンセル] をクリックすると、1 つ前の画面に戻ります。

- (3) 前の月、次の月へ切り替えたい場合は、それぞれ◀、または▶をクリックします。
(4) 今日の日付が選択された状態にする場合は、[今日] をクリックします。
(5) 設定したい日付を選んでクリックします。
画面が消え、元の画面に戻ります。

5. 認証情報を表示するユーザーを入力します。[アドレス帳] をクリックして表示される [アドレス帳] 画面からユーザーを選択できます。[クリア] をクリックすると、ユーザーの選択を解除できます。

6. 一覧に表示する操作を限定する場合は、[操作] から、一覧に表示する操作を選択します。フィルター対象に何も設定されていない場合は、フィルター候補の操作すべてが一覧に表示されます。

- (1) [フィルター候補] から、表示する操作を選択して [追加] をクリックします。
(2) フィルター対象から操作を除外する場合は、[フィルター対象] から操作を選択して [削除] をクリックします。

7. [成否] で、表示する操作を指定するラジオボタンを選択します。

◆ すべての操作を表示する場合

- (1) [指定なし] を選択します。

◆ 成功した操作だけを表示する場合

- (1) [成功] を選択します。

◆ 失敗した操作だけを表示する場合

- (1) [失敗] を選択します。

8. [表示] をクリックします。

認証ログの内容が表示されます。

- 補足**
- ・設定したフィルターを解除する場合は、[フィルター解除] をクリックします。
 - ・表示されている内容を CSV 出力する場合は [CSV 出力] をクリックします。
 - ・行を選択して [フィルターに追加] > [ユーザー] をクリックすると、表示されているユーザーがフィルターに追加されます。

3.2.2 操作ログを表示する

1. [ログ管理] 画面の左側にある [ログ管理] から、[操作ログ表示] をクリックします。

画面の右側に、[操作ログ表示] の情報が表示されます。

2. [最大表示件数] に、一覧に表示するログの最大表示件数を入力します。1 ~ 10000 までの範囲で入力できます。

3. [対象範囲] でログを取得したいサービスまたはキャビネットを、プルダウンメニューから選択します。

- 補足** ドキュメント管理サービスが 1 つの場合、[対象範囲] には [キャビネット] だけが表示され、[サービス] は表示されません。

4. 一覧に表示する条件を設定する場合は、 フィルターアイコンをクリックします。

5. [対象期間] の [開始日]、[終了日] を、直接入力するか、横の  カレンダーアイコンを選択して設定します。

補足 ・デフォルトは空白です。
 ・開始日と終了日の日付は、インストールされたサーバーのタイムゾーンで評価されます。

◆ 直接入力する場合

- (1) [YYYY/MM/DD] の形式で入力します。たとえば、2021年1月15日のときは、「2021/01/15」と入力します。

◆ カレンダーアイコンから入力する場合

- (1) カレンダーアイコンをクリックします。
 表示されている日付のカレンダーが表示されます。



- (2) 年月を一度に切り替えたい場合は、年月の表示の横にある▼をクリックします。
 年月を選択する画面が表示されます。



年月を選択して [OK] をクリックします。[キャンセル] をクリックすると、1つ前の画面に戻ります。

- (3) 前の月、次の月へ切り替えたい場合は、それぞれ 、または  をクリックします。
 (4) 今日の日付が選択された状態にする場合は、[今日] をクリックします。
 (5) 設定したい日付を選んでクリックします。
 画面が消え、元の画面に戻ります。

6. 操作ログを表示するユーザーを入力します。[アドレス帳] をクリックして表示される [アドレス帳] 画面からユーザーを選択できます。[クリア] をクリックすると、選択したユーザーを消去できます。

7. [フィルターに追加] > [オブジェクト] を選択し、操作ログを表示するオブジェクトを選択します。
 [クリア] をクリックすると、選択したオブジェクトを消去できます。

補足 オブジェクトは、操作ログの内容を表示したあとに選択できます。

8. 一覧に表示する操作を限定する場合は、[操作] から、一覧に表示する操作を選択します。フィルター対象に何も設定されていない場合は、フィルター候補の操作すべてが一覧に表示されます。
 - (1) [フィルター候補] から、表示する操作を選択して [追加] をクリックします。
 - (2) フィルター対象から操作を除外する場合は、[フィルター対象] から操作を選択して [削除] をクリックします。
9. [成否] で、表示する操作を指定するを選択します。
 - ◆ すべての操作を表示する場合
 - (1) [指定なし] を選択します。
 - ◆ 成功した操作だけを表示する場合
 - (1) [成功] を選択します。
 - ◆ 失敗した操作だけを表示する場合
 - (1) [失敗] を選択します。
10. [表示] をクリックします。
操作ログの内容が表示されます。

3.2.3 ログ表示を操作する

表示された内容をフィルターに追加する

一覧として表示されているユーザー名を、フィルターに追加できます。操作ログの場合は、オブジェクトも追加できます。

1. ログの表示されている行を選択して [フィルターに追加] > [ユーザー] または [オブジェクト] をクリックします。
表示されているユーザーまたはオブジェクトがフィルターに追加されます。
補足 [オブジェクト] は、操作ログを操作する場合に表示されます。
2. 設定したフィルターを解除する場合は、[フィルター解除] をクリックします。

表示されている内容を CSV 出力する

[CSV出力] をクリックすると、一覧として表示されている内容をCSV出力できます。

1. [CSV出力] をクリックします。
2. ファイルを保存するダイアログボックスが表示されるので、[保存] をクリックします。
CSV ファイルが出力されます。

プロパティを表示する

一覧で選択したログの詳細な情報を表示できます。

1. ログの表示されている行を選択して、[表示オプション] から [プロパティ表示] を選択します。
ログの詳細な情報が表示されます。

操作ログ表示

操作ログを表示します。

| 項目 | 値 | 項目 | 値 |
|-----------------|---------------------------------|----------|----------------------------------|
| 日時 | 2016/01/06 18:44:12 | 名前 | TestPutAndDocuWorksStampObjectRM |
| ユーザー | uid=testuser05,ou=Users,dc=ymmm | コンテンツタイプ | image/bmp |
| リクエストオーナー | uid=testuser05,ou=Users,dc=ymmm | ファイル名 | TestPutAndDocuWorksStampObjectRM |
| クライアントホストIPアドレス | 172.27.194.254 | 最新版フラグ | |
| アプリケーション操作識別子 | | 版名称 | |
| 操作 | スタンプ | 版番号 | |
| 成否 | 失敗 | | |
| 操作処理時間(ミリ秒) | 312441 | | |
| セッションモード | 通常モード | | |
| ジョブグループID | | | |
| ジョブID | 00000CE1497A3154 | | |
| アプリケーションラベル | ドキュメントスペース | | |
| アプリケーション名 | drepTest | | |
| アプリケーションIPアドレス | 172.27.194.254 | | |
| キャビネット名 | smokeDS | | |
| キャビネットID | smokeDS | | |
| オブジェクトカテゴリー | ドキュメント | | |
| オブジェクトタイプ | ドキュメント | | |
| オブジェクトID | lion:smokeDS:142053713931120 | | |
| リビジョン番号 | 0 | | |
| 重要度 | INFO | | |

2. または をクリックすると、表示される情報が切り替わります。

3.3 操作ログの取得方法

対象範囲と対象期間を指定して、操作ログをダウンロードします。

CSVファイルをZIPファイル形式にしたものが、指定した場所にダウンロードされます。

ログが記録されているときは、キャビネットが削除されていてもログを取得できます。

- 注記**
- ・ 1 ファイルに記録可能なログは 65535 までで、1 ファイルに収まらない場合は複数ファイルに分割されます。
 - ・ ファイルの文字コードは OS のデフォルトである Windows-31J です。

補足 次の場合はエラーになります。

- ・ 取得対象のドキュメント管理サービスの操作ログが初期化されていない場合
- ・ 取得できる操作ログが 1 件も存在しない場合
- ・ ArcSuite サーバーのハードディスクの空き容量が設定値よりも少ない場合（設定値はデフォルトでは 500Mbyte）

参照 ArcSuite サーバーに必要なハードディスクの空き容量の設定方法は、[\[2.7 システムプロパティで追加する設定パラメーター\] \(P.30\)](#) を参照してください。

1. [ログ管理] 画面の左側にある [ログ管理] から、[操作ログ取得] をクリックします。

画面の右側に、[操作ログ取得] の情報が表示されます。



2. [対象範囲] でログを取得したいサービスまたはキャビネットを、プルダウンメニューから選択します。

補足 ドキュメント管理サービスが 1 つの場合、[対象範囲] には [キャビネット] だけが表示され、[サービス] は表示されません。

3. [対象期間] の [開始日]、[終了日] を、直接入力するか、横の カレンダーアイコンを選択して設定します。

注記 開始日と終了日との間隔は、最大で 1 年が指定可能です。

補足

- ・ デフォルトでは、[終了日] は操作している当日の日付、[開始日] は、操作当日から 1 か月過去の日付が表示されています。
- ・ 開始日と終了日の日付は、インストールされたサーバーのタイムゾーンで評価されます。

◆ 直接入力する場合

- (1) 「YYYY/MM/DD」の形式で入力します。たとえば、2021 年 1 月 15 日のときは、「2021/01/15」と入力します。

◆ カレンダーアイコンから入力する場合

- (1) カレンダーアイコンをクリックします。
表示されている日付のカレンダーが表示されます。



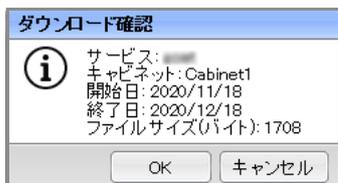
- (2) 年月を一度に切り替えたい場合は、年月の表示の横にある▼をクリックします。
年月を選択する画面が表示されます。



年月を選択して [OK] をクリックします。[キャンセル] をクリックすると、1 つ前の画面に戻ります。

- (3) 前の月、次の月へ切り替えたい場合は、それぞれ◀、または▶をクリックします。
(4) 今日の日付が選択された状態にする場合は、[今日] をクリックします。
(5) 設定したい日付を選んでクリックします。
画面が消え、元の画面に戻ります。

4. [ダウンロード] をクリックします。
[ダウンロード確認] 画面が表示されます。



5. [OK] をクリックすると、指定した場所に ZIP 形式のファイルが保存されます。

補足 [キャンセル] をクリックすると、何もせずに元の画面に戻ります。

補足 入力した内容をクリアする場合は、[操作ログ取得] 画面で [リセット] をクリックします。

3.4 保守情報を一括取得する方法

ArcSuiteがインストールされているホストのログ、設定情報、ホスト情報を、ログ収集ツールを呼び出すことで取得します。

参照 ログ収集ツールについては、[\[4 ログ収集ツールの使い方\] \(P.45\)](#) を参照してください。

「一括ログ収集」では、「ログ収集ツール」コマンドを実行した結果と同じログが取得できます。

補足 次の場合はエラーになります。

- ・取得対象のどのホストからもログが取得できなかった場合
- ・ArcSuite サーバーのハードディスクの空き容量が、設定値よりも少ない場合（設定値はデフォルトでは500Mbyte）
- ・ログ収集ツールの実行がタイムアウトした場合

参照 ArcSuite サーバーに必要なハードディスクの空き容量、および、一括ログ収集実行時のログ収集ツールの実行タイムアウト秒数の設定方法は、[\[2.7 システムプロパティで追加する設定パラメーター\] \(P.30\)](#) を参照してください。

1. [ログ管理] 画面の左側にある [ログ管理] から、[一括ログ収集] をクリックします。画面の右側に、[一括ログ収集] の情報が表示されます。



2. [対象範囲] から、すべてのホストを収集するか、特定のホストだけを収集するかを指定します。

◆ すべてのホストの保守情報を収集する場合

- (1) [全ホスト] を選択します。

◆ 指定したホストの保守情報だけを収集する場合

- (1) [ホスト] を選択し、プルダウンメニューからログを取得したいホストを選択します。

3. [対象期間] の [開始日]、[終了日] を、直接入力するか、横の  カレンダーアイコンを選択して設定します。

注記 開始日と終了日との間隔は、最大で1か月が指定可能です。

補足

- ・デフォルトでは、[終了日] は操作している当日の日付、[開始日] は、操作当日から10日前の日付が表示されています。
- ・開始日と終了日の日付は、インストールされたサーバーのタイムゾーンで評価されます。

◆ 直接入力する場合

- (1) [YYYY/MM/DD] の形式で入力します。たとえば、2021年1月15日のときは、「2021/01/15」と入力します。

◆ カレンダーアイコンから入力する場合

- (1) カレンダーアイコンをクリックします。
表示されている日付のカレンダーが表示されます。



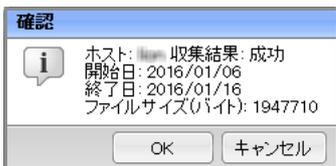
- (2) 年月を一度に切り替えたい場合は、年月の表示の横にある▼をクリックします。
年月を選択する画面が表示されます。



年月を選択して [OK] をクリックします。[キャンセル] をクリックすると、1 つ前の画面に戻ります。

- (3) 前の月、次の月へ切り替えたい場合は、それぞれ◀、または▶をクリックします。
(4) 今日の日付が選択された状態にする場合は、[今日] をクリックします。
(5) 設定したい日付を選んでクリックします。
画面が消え、元の画面に戻ります。

4. [ダウンロード] をクリックします。
[ダウンロード確認] 画面が表示されます。



5. [OK] をクリックすると、指定した場所に ZIP 形式のファイルが保存されます。

補足 [キャンセル] をクリックすると、何もせずに元の画面に戻ります。

補足 入力した内容をクリアする場合は、[操作ログ取得] 画面で [リセット] をクリックします。



4 ログ収集ツールの使い方

ログ収集ツールの使い方について説明します。

4.1 ログ収集ツールとは

ログ収集ツールとは、各ホストでログや設定情報などを取得するためのツールです。

ArcSuiteサーバーでコマンドを実行して、情報を取得します。

「ログ管理アプリケーション」の「一括ログ収集」を使用すると、ログ収集ツールの実行結果が取得できます。

参照 「ログ管理アプリケーション」については、[「1 ログ管理アプリケーションの概要」\(P.10\)](#)、「一括ログ収集」については、[「3.4 保守情報を一括取得する方法」\(P.43\)](#)をそれぞれ参照してください。

ログ収集ツールは、ArcSuiteサーバーにインストールされます。次のコンポーネントがインストールされたサーバーは、ログ収集ツールも同時にインストールされています。

- ・ Web アプリケーション
- ・ ドキュメント管理サービス
- ・ リソース管理サービス
- ・ ファイルフォーマット変換サービス
- ・ 全文検索サービス
- ・ 監視サービス
- ・ Web サービスインターフェイス

補足 これらのコンポーネントは「サービス系コンポーネント」と呼ばれます。ArcSuiteの基本機能を提供するサービスです。

ツール実行時には、実行結果の出力先フォルダーの指定と、収集期間（開始日と終了日）の指定が必要です。

参照 コンポーネントの分類や配置については、『システム管理者ガイド』を参照してください。

4.2 ログ収集ツールで取得できるログの種類

ログ収集ツールは、インストールされているホストについて、次の情報を収集します。
取得できるログの説明と収集期間は次のとおりです。

表：ログ収集ツールで取得できるログ一覧

| 項目 | 説明 | 収集期間 |
|---------------|--------------------------------|---|
| ArcSuiteログ | ArcSuiteが出力するログファイル | 指定された期間 補足 期間指定に関係なく収集される例外あり |
| データベースログ | データベースが出力するログファイル | 期間指定には無関係 |
| ホスト情報 | OSの種類、サービスパック、適用パッチ、ハードウェア情報など | 期間指定には無関係 |
| Windowsイベントログ | Windowsのシステムログとアプリケーションログ | 指定された期間 |
| レジストリー情報 | ArcSuiteが使用するレジストリー | 期間指定には無関係 |

4.2.1 ArcSuite ログ収集

ログ収集ツールで取得できるArcSuiteログについて説明します。

- 補足** ・ {ユーザーホーム} は、デフォルトでは、「C:¥ArcSuite」になります。
- ・ {プログラムホーム} は、デフォルトでは、「C:¥Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite」になります。
- ・ サービス系コンポーネント以外のログは、そのモジュールがサービス系コンポーネントと同居している場合にだけ、収集できます。

収集内容

ArcSuiteログとして収集できるモジュール名と対象となるパスは、次のとおりです。対象パス以下のフォルダー、ファイルを収集します。

| モジュール名 | 対象パス |
|-----------------|---|
| サービス系コンポーネント | {ユーザーホーム} ¥Service¥logs |
| キャプチャリングサービス | {ユーザーホーム} ¥Client¥Capture¥logs |
| 統合検索サービス | {ユーザーホーム} ¥Client¥DocumentGatheringAgent¥logs |
| ドキュメント管理サービスSDK | {プログラムホーム} ¥Tool¥dRepTools¥Logs |
| コラボIFTK | {プログラムホーム} ¥Tool¥CollabofITK¥Logs |
| ワークフロー IFTK | {プログラムホーム} ¥Tool¥WorkflowIFTK¥Logs |

収集期間

指定された期間のログを収集します。ただし、次の表にあるものについては、常にすべてのログを収集します。

| モジュール名 | 収集期間指定位置 |
|------------------|---|
| サービス系コンポーネント | {ユーザーホーム} %Service%logs%Install |
| キャプチャリングサービス | {ユーザーホーム} %Client%Capture%logs%Install |
| 統合検索サービス | {ユーザーホーム} %Client%DocumentGatheringAgent%logs%Install |
| ドキュメント管理サービス SDK | {プログラムホーム} %Tool%dRepTools%Logs |
| コラボIFTK | {プログラムホーム} %Tool%CollaboIFTK%Logs |
| ワークフロー IFTK | {プログラムホーム} %Tool%WorkflowIFTK%Logs |

4.2.2 データベースログ収集

ログ収集ツールで取得できるデータベースログについて説明します。

収集内容

データベースが、サービス系コンポーネントと同居している場合にだけ、収集できます。

次の対象パス以下のフォルダー、ファイルを収集します。

{DATABASE_BASE} %diag%rdbms% {SID} % {SID} %trace

補足

- ・ {DATABASE_BASE} はレジストリーから値を取得します。
レジストリーキー：HKEY_LOCAL_MACHINE%SOFTWARE%ORACLE%KEY_OraDB19Home1
値の名前：ORACLE_BASE

なお、データベースのバージョンは、次の手順で確認できます。

(1) [コントロールパネル] 画面で [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。

[プログラムと機能] ウィンドウが表示されます。

(2) 「ArcSuite データベース」を選択します。

画面下に表示された [製品バージョン] のバージョン番号を確認します。

- ・ {SID} はレジストリーから値を取得します。
レジストリーキー：HKEY_LOCAL_MACHINE%SOFTWARE%ORACLE%KEY_OraDB19Home1
値の名前：ORACLE_SID
- ・ 上記のフォルダーが存在しない場合は、収集を実行しません。

収集期間

指定した期間には関係なく収集します。

4.2.3 ホスト情報の収集

ログ収集ツールで取得できるホスト情報について説明します。

収集内容

ホスト情報の取得には、Windowsの管理コマンドが使われています。

| 出力項目 | 内容 |
|---------------|--|
| システムの概要 | OS名 OSバージョン 物理メモリー 仮想メモリー ホスト名 ユーザー名 システム製造元 システムモデル CPU BIOS |
| ドライブ (HDDの情報) | ドライブレター タイプ 総容量 空き容量 |
| ネットワーク | 名前 MACアドレス IP利用フラグ ホスト名 DNSドメイン IPアドレス サブネット デフォルトゲートウェイ DNS 1、DNS 2 WINS LMHOSTS参照フラグ DHCP利用フラグ DHCPサーバ DHCPリリース時刻 DHCP取得時刻 |
| 環境変数 | 収集対象のホストに設定されている環境変数 |

| 出力項目 | 内容 |
|---------|---|
| 実行中のタスク | 生成日時 プロセスID 親プロセスID 優先度 名前 実行パス ページフォルト ページファイル使用数 最大ページファイル使用数 スレッド数 実行パス コマンドライン |
| サービス | プロセスID 名前 パス プロセス状態 ステータス Exitコード 実行パス |

収集期間

指定した期間には関係なく収集します。

4.2.4 Windows イベントログの収集

ログ収集ツールで取得できるWindowsイベントログについて説明します。

収集内容

「システムログ」と「アプリケーションログ」の2種類を取得します。取得には、Windowsの管理コマンドが使われます。

収集期間

指定した期間のログが収集されます。

4.2.5 レジストリーの収集

ログ収集ツールで取得できるレジストリー情報について説明します。

収集内容

次のエントリーについて、レジストリー情報を取得します。

| モジュール名 | 収集対象キー |
|-----------------|---|
| ArcSuite使用レジストリ | HKLM¥SOFTWARE¥FUJIFILM¥ArcSuite HKLM¥SOFTWARE¥FUJIFILM¥FXDocCnv HKLM¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥FUJIFILM¥ArcSuite HKLM¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥FUJIFILM¥FXDocCnv |
| サービスの設定 | HKLM¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥ {サービス} 取得対象の {サービス} は、次のとおりです。 ApcHelper ArcSuite Basic Service ArcSuite Capturing Service ArcSuite Capturing Service Admin ArcSuite Collabo Service ArcSuite DocumentGatheringAgent Register ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin ArcSuite Full Text Search Service ArcSuite kSearchDuo Service ArcSuite Monitoring Service ArcSuite Repository Master Admin Service ArcSuite Repository Slave Admin Service ArcSuite Repository Service ArcSuite Web Application Service DocCnvHelper |

- 補足**
- ・表中の「HKLM」とは、「HKEY_LOCAL_MACHINE」を表します。
 - ・次の対象キーについては、64ビットOSの場合にだけ収集します。
HKLM¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥FUJIFILM¥ArcSuite
HKLM¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥FUJIFILM¥FXDocCnv

収集期間

指定した期間には関係なく収集します。

4.2.6 ログ収集ツールのログ

ログ収集ツールを起動すると、ログ収集ツールの実行ログも取得できます。指定された出力先フォルダーに、収集したデータとログ収集ツールの実行ログを出力します。

ログ収集ツールの実行ログの名前は「asgetlog.log」になります。

出力先として指定したフォルダーの直下に出力されます。

4.3 ログ収集ツールの使い方

コマンドプロンプトを起動して、実行結果の出力先フォルダーと、収集期間（開始日と終了日）を指定します。

補足 収集時にエラーが発生した場合、処理を中断して実行結果表示機能にエラーの内容を出力します。

ただし、次の場合はエラーとして扱わず、処理を継続します。

- ・ ArcSuite ログの収集対象パスにフォルダー、またはファイルが存在しない場合
- ・ Windows イベントログが存在しない場合
- ・ レジストリーの収集対象キーが存在しない場合
- ・ データベースログが存在しない場合

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
3. コマンドの格納ディレクトリーに移動します。
コマンドの格納先は、次のとおりです。
{プログラムホーム} %Service%Components\LogAdmin%bin

補足 {プログラムホーム} は、デフォルトでは、「C:%Program Files\FUJIFILM%ArcSuite」になります。

4. コマンドをパラメーターとともに、次のように入力して <Enter> キーを押します。

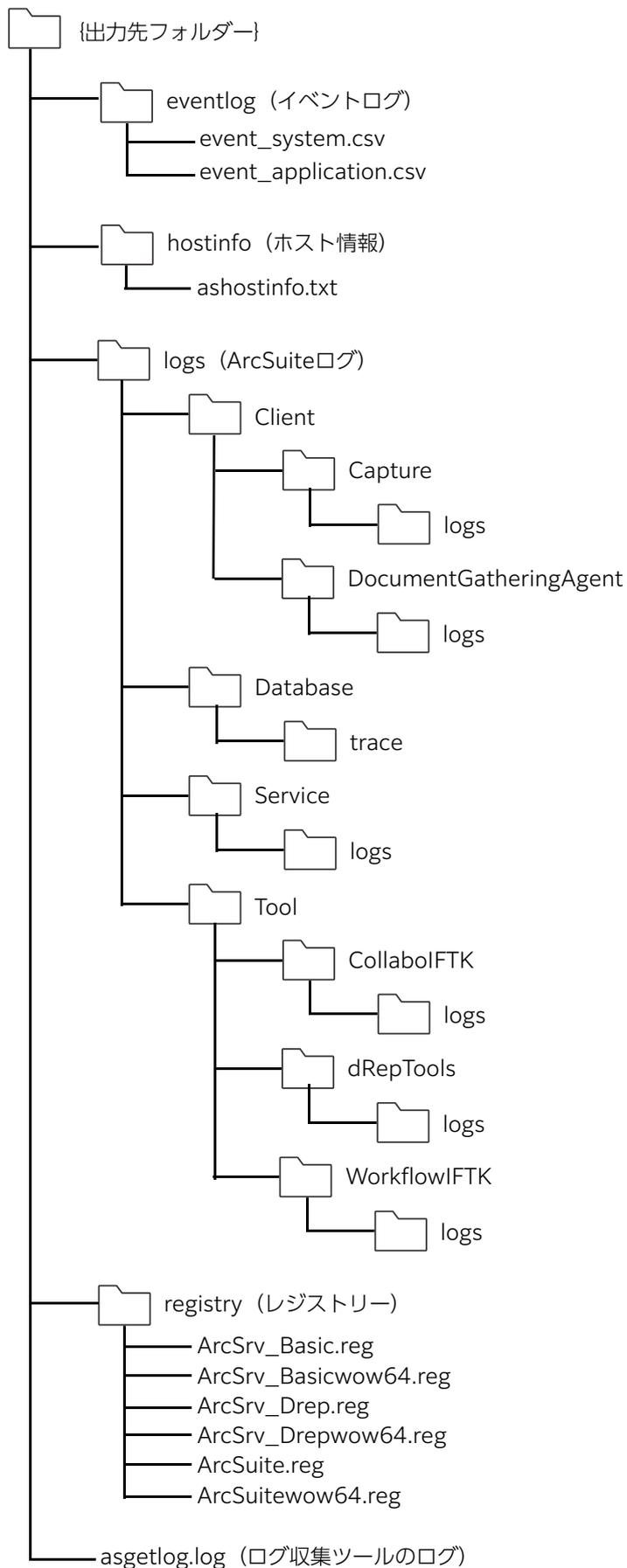
```
ASGetLog.Bat {出力先フォルダー} {開始日} {終了日}
```

例：ASGetLog.Bat C:%Temp 2021/01/05 2021/03/31

- 補足**
- ・ 出力先フォルダーは、ドライブ名も付けた形で入力します。
 - ・ 開始日と終了日の形式は、「yyyy/mm/dd」です。
 - ・ {出力先フォルダー}、{開始日} および {終了日} は、すべて入力必須です。

5. 手順 4 で指定した出力先フォルダーに、開始日から終了日の期間のログが収集されます。

コマンドの実行結果は、指定した出力先フォルダーに、次のよう出力されます。





付録

付録 A 操作ログの見方

「ログ管理アプリケーション」で取得できる操作ログの見方について説明します。
操作ログは、「いつ、誰が、どのような操作をしたか」を記録するログです。
記録されるログの内容は、設定によって変わります。

また、クライアント操作識別子を補う情報として、クライアント操作情報（clientOperationInformation）があります。

キーと値をセットにして、複数の内容が列挙して記録されます。

また、「操作識別子」は操作の目的を表し、クライアント操作識別子よりも細かい操作情報を記録します。

操作ログで注意することについて、説明します。

1つの操作に対して複数のログが記録される場合

次の場合に、ユーザーの1つの操作に対し、複数のログが記録されます。

- ・種類の異なる複数の処理を実行する場合
- ・複数のオブジェクトが処理対象となる場合

ドキュメントスペースから操作したときに、1つの操作で複数の操作ログの行が記録される場合には、次の項目が同じ値の操作ログで識別できます。

- ・ジョブグループ ID（jobGroupId）
- ・クライアント操作識別子（clientOperation）

「ジョブグループID」は、個々の操作を識別するためのユニークなIDとして、1つの操作に対して毎回異なる1つの値が割り当てられます。

1つの操作による場合、ジョブグループIDはすべて同一の値になります。

「クライアント操作識別子」は、ユーザの操作の内容を識別するためのものです。

1つの操作による場合、クライアント操作識別子はすべて同一の値になります。

| date | clientId | operation | jobId | jobGroupId | clientOperation |
|------------|------------|--------------------|----------------------|--|--------------------|
| 2021-02-16 | 129.249... | PutObject | 00000ADC D19CBB51 | ef487230-f80a- 476f-b962- 4e5fe30c9ba9 | CREATE_FLOLDE R |
| 2021-02-16 | 129.249... | LookUpChi ldren | 00000ADC D19CBB51 | ef487230-f80a- 476f-b962- 4e5fe30c9ba9 | CREATE_FLOLDE R |
| 2021-02-16 | 129.249... | LookUpChi ldren | 00000ADC D19D5794 | ee7f7581-0ec5- 46f1-bfd2- 620af583d841 | OPEN |

1つの操作を記録した操作ログの例。「jobGroupId」の欄および「clientOperation」の欄の値が同じ。

ジョブグループID およびクライアント操作識別子を記録しない場合

例外として、キャッシュを更新するような場合は、ジョブグループIDおよびクライアント操作識別子を記録しません。

付録 A.1 操作ログの項目

操作ログの項目一覧です。

| 項目 | 項目名 | 説明 | 備考 | 例 |
|-------------------|-----------------|--|---|--|
| date | 日時 | ログを記録した日時（操作が実行された日時） | | 2021-03-15 13:48:22,643 |
| priority | 記録レベル | 記録内容のプライオリティ | INFOのみ | INFO |
| componentType | コンポーネント種別識別子 | ドキュメント管理サービスでは次の値を取り得る - Repository - Repository_Admin - Repository_Migration - Repository_Synchronization | 操作ログで記録され得るのはRepositoryのみ | Repository |
| hostId | ホストID | 操作をしたPCを表す識別子（IPアドレス） | | 192.168.1.100 |
| clientComponentId | クライアントコンポーネントID | クライアントコンポーネントを特定する識別子 | クライアントコンポーネント（ドキュメントスペースなど）を特定する識別子 対応するコンポーネントエントリーのDN名 | cn=document space@paper o,ou=components,dc=division1 |
| componentId | コンポーネントID | コンポーネントを表す識別子 | | cn=document space@paper o,ou=components,dc=division1 |
| user | ユーザー | セッションオーナー | | uid=rmsadmin, ou=users,dc=division1 |
| clientId | クライアントID | クライアントのPCを表す識別子 ドキュメント管理サービスに対するクライアントコンポーネントがこの値を設定する | クライアントコンポーネントが動作しているPCのIP | 192.168.1.100 |
| operation | 操作識別子 | ドキュメント管理サービスでの操作の種別を表す識別子 別表参照 | | PutObject |
| status | 操作成否 | オブジェクト操作が成功した（OK）か、失敗した（NG）か | | OK |
| operationMeanTime | 操作処理時間 | 操作にかかった時間（単位はミリ秒） | | 2141 |

| 項目 | 項目名 | 説明 | 備考 | 例 |
|------------------|--------------|---|--|--------------------------------------|
| userClientId | ユーザークライアントID | ユーザーが使用しているPCのIPアドレス ドキュメント管理サービスからのアクセスでは、Webブラウザが起動しているPCのIP | クライアントコンポーネントでは、設定されない | 192.168.1.100 |
| requestOwner | リクエストオーナー | ドキュメント管理サービスに対する操作要求を行ったリクエストオーナー | | uid=rmsadmin,ou=users,dc=division1 |
| service | サービス | サービスのID | | service |
| server | サーバー | ドキュメント管理サービスが動作しているサーバーの名前 | | host |
| serverType | サーバー種別 | ドキュメント管理サービスが稼働しているサーバーの種別 | | drep_repository |
| jobId | ジョブID | 操作ごとに割り当てられたID ドキュメント管理サービスでは、オブジェクトに対する基本操作が1つのジョブに相当 | 英数文字からなる16桁の文字列 | 00000BBB5980C296 |
| jobGroupId | ジョブグループID | クライアントでの操作を単位として、複数のジョブをグルーピングするために割り当てられたID | | e017f75f-3617-476e-ab1b-b7357453e7ec |
| clientOperation | クライアント操作識別子 | ジョブグループに対応して、クライアントでの操作の種類を識別するために設定される値 別表参照 | | CREATE_DOCUMENT |
| sessionMode | セッションモード | セッションモード | セッションのモード 管理者モードの場合は「admin」と記録される 通常モードの場合は空文字（空欄） | (空欄) |
| applicationLabel | アプリケーションラベル | 操作に使用されたアプリケーションのラベル | | DocumentSpace |
| objectCategory | オブジェクトカテゴリー | 操作対象オブジェクトのオブジェクトカテゴリー | | system:document |
| objectType | オブジェクトタイプ | 操作対象オブジェクトのオブジェクトタイプ | | system:document |
| cabinetId | キャビネットID | 操作対象オブジェクトが属するキャビネットID | | cabinet |
| cabinetName | キャビネット名 | 操作対象オブジェクトが属するキャビネット名 | | cabinet |
| objectId | オブジェクトID | 操作対象オブジェクトのオブジェクトID | | 129429202708200 |

| 項目 | 項目名 | 説明 | 備考 | 例 |
|----------------------------|------------|---|----|--|
| objectRevision Number | リビジョン番号 | 操作対象オブジェクトのリビジョン番号 最新リビジョンに対する操作の場合は0、作業リビジョンの場合は-1、特定のリビジョンに対する操作の場合は、そのリビジョンの番号が記録される | | 0 |
| relatedService | 関連サービス | 関連するオブジェクトのサービス名 | | |
| relatedCabinetId | 関連キャビネットID | 関連するオブジェクトのキャビネットID | | |
| relatedCabinetName | 関連キャビネット名 | 関連するオブジェクトのキャビネット名 | | |
| relatedObjectId | 関連オブジェクトID | 関連するオブジェクトのオブジェクトID | | |
| clientOperationInformation | クライアント操作情報 | クライアント操作識別子を補完する情報 ドキュメント管理サービスのクライアントコンポーネントで、ログに記録しておきたい情報があるときに指定する キーと値の組を複数個列挙した形式で記録される | | [content=[system:primary]] [appOperation=regist] |
| acl | アクセス権リスト | | | Everyone^get Attribute setAttribute getContent setContent viewContent printContent deleteObject changeAcl changeStatus changeLock addRevision removeRevision |

補足 操作ログには、これら項目のほかに、「オブジェクト特定属性値」が記録されます。ユーザーは、オブジェクト特定属性値のそれぞれの項目について、操作ログに「記録する / しない」を設定できます。

参照 オブジェクト特定属性値については、[\[付録 A.1.1 操作ログのオブジェクト特定属性値\] \(P.59\)](#) を参照してください。

付録 A.1.1 操作ログのオブジェクト特定属性値

「オブジェクト特定属性値」とは、操作対象オブジェクトを特定するための情報として使用する属性です。キャビネットごとにログに「記録する/しない」をユーザーが設定できます。

「記録する」に設定した項目が、操作ログに記録されます。

参照 キャビネットごとにオブジェクト特定属性を「記録する/しない」を設定する方法については、[\[2.6.1 キャビネットに操作ログを設定する\] \(P.24\)](#) を参照してください。

「オブジェクト特定属性値」には、ユーザー定義属性と、システム属性が使用できます。

ユーザー定義属性については、次の条件を満たす属性だけがオブジェクト特定属性に指定できます。

- ・単値属性であること
- ・数値型、文字列型、日時型、のどれかであること

システム属性については、指定できるオブジェクト特定属性値は次のとおりです。

表中の「デフォルト」欄に○がついている項目は、ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版で、[操作ログのキャビネット設定] を設定するときに、デフォルトで記録するシステム属性を表します。

表 : 操作ログに記録できるオブジェクト特定属性

| 項目 | 項目名 | デフォルト |
|---------------------------|----------------|-------|
| name | 名前 | ○ |
| editionNumber | エディション番号 | ○ |
| editionLabel | エディションラベル | ○ |
| createdOn | 登録日時 | |
| modifiedOn | 最終変更日時 | |
| dmsName | 名前 (DMS) | |
| class | クラス | |
| latestEditionFlag | 最新版フラグ | ○ |
| status | 状態 | |
| referentObjectCategory | 参照先オブジェクトカテゴリー | |
| referentObjectType | 参照先オブジェクトタイプ | |
| referentMediaType | 参照先メディアタイプ | |
| statusChangedOn | 最終状態変更日時 | |
| retentionPeriodStartDate | 保存期間開始日時 | |
| retentionPeriodEndDate | 保存期間終了日時 | |
| retentionPeriodModifiedOn | 最終保存期間変更日時 | |
| locationLabel | 所在管理ラベル | |
| archivalPreservedOn | アーカイブ保存日時 | |
| archivalPreserveStatus | アーカイブ保存状況 | |
| offlineContentFlag | オフラインコンテンツフラグ | |
| contentType | コンテンツタイプ | ○ |

表 :操作ログに記録できるオブジェクト特定属性

| 項目 | 項目名 | デフォルト |
|-------------------------|-----------------|-------|
| mediaType | メディアタイプ | |
| charset | キャラクタセット | |
| numberOfPages | ページ数 | |
| pageSize | ページサイズ | |
| pageHeight | ページ長 | |
| pageWidth | ページ幅 | |
| fileName | ファイル名 | ○ |
| contentSizeBytes | コンテンツサイズバイト | |
| colorSpace | 色空間 | |
| colorDepth | 色の深さ | |
| resolution | 解像度 | |
| latestTimestamp | 最新タイムスタンプ日時 | |
| oldestTimestamp | 最古タイムスタンプ日時 | |
| timestampNotAfter | タイムスタンプ有効期限終了日時 | |
| certificateNotBefore | 証明書有効期限開始日時 | |
| certificateNotAfter | 証明書有効期限終了日時 | |
| certificateSerialNumber | 証明書シリアルNo. | |
| certificateIssuer | 証明書発行者 | |
| certificateSubject | 証明書所有者 | |
| crlIssuer | CRL発行者 | |
| crlThisUpdate | CRL発行日時 | |
| crlNextUpdate | 次回CRL発行日時 | |
| evidenceStatus | 証拠情報ステータス | |
| certificateNextUpdate | 次回証明情報更新日時 | |
| validationNotAfter | 検証有効期限終了日時 | |
| latestDocumentTimestamp | 最新文書タイムスタンプ日時 | |

付録 A.2 操作ログの操作識別子

操作ログの操作識別子は次のとおりです。ドキュメントスペース、ドキュメント管理サービスSDK、Webサービスインターフェイスなどから操作したときに、ログに記録されます。

表中の「デフォルト」欄に○がついている項目は、ドキュメント管理サービス管理アプリケーションデスクトップ版で、[操作ログのキャビネット設定] を設定するときに、デフォルトで記録する操作を表します。

ドキュメント管理サービス管理コマンド、ドキュメント管理サービス管理アプリケーション、およびログ管理アプリケーションで操作ログをエクスポートしたときは、表中の「操作識別子」欄の値が出力されます。

表 : 操作識別子

| 操作識別子 | 操作内容 | 操作対象オブジェクト | デフォルト |
|----------------------------------|---------------------|-------------|-------|
| PutObject | 新規登録 | 生成されたオブジェクト | ○ |
| GetObject.WithoutContent | 取得 (属性のみ) | 取得対象オブジェクト | |
| GetObject.WithContent | 取得 (コンテンツを含む) | 取得対象オブジェクト | ○ |
| GetObjectForView.WithoutContent | 表示処理用の取得 (属性のみ) | 取得対象オブジェクト | |
| GetObjectForView.WithContent | 表示処理用の取得 (コンテンツを含む) | 取得対象オブジェクト | ○ |
| GetObjectForPrint.WithoutContent | 印刷処理用の取得 (属性のみ) | 取得対象オブジェクト | |
| GetObjectForPrint.WithContent | 印刷処理用の取得 (コンテンツを含む) | 取得対象オブジェクト | ○ |
| SetObject.WithoutContent | 変更 (属性のみ) | 更新対象オブジェクト | ○ |
| SetObject.WithContent | 変更 (コンテンツを含む) | 更新対象オブジェクト | ○ |
| DeleteObject | 削除 | 削除対象オブジェクト | ○ |
| SearchObject | 検索 | 検索起点オブジェクト | |
| LookupChildren | 一覧 | 親オブジェクト | |
| CopyObject.Source | コピー (コピー元オブジェクト) | 転記元オブジェクト | ○ |
| CopyObject.Target | コピー (コピーされたオブジェクト) | 生成されたオブジェクト | ○ |
| MoveObject | 移動 (キャビネット内) | 移動対象オブジェクト | ○ |
| AssignEditionKey | 版管理開始 | 更新対象オブジェクト | ○ |
| DisposeEditionKey | 版管理取り消し | 更新対象オブジェクト | ○ |
| CheckoutObject | チェックアウト | 更新対象オブジェクト | ○ |
| CheckinObject | チェックイン | 更新対象オブジェクト | ○ |
| UncheckoutObject | チェックアウト取り消し | 更新対象オブジェクト | ○ |
| AddRevision.WithoutContent | リビジョン追加 (属性のみ) | 更新対象オブジェクト | ○ |
| AddRevision.WithContent | リビジョン追加 (コンテンツを含む) | 更新対象オブジェクト | ○ |
| RemoveRevision | リビジョン削除 | 更新対象オブジェクト | ○ |

表 : 操作識別子

| 操作識別子 | 操作内容 | 操作対象オブジェクト | デフォルト |
|---------------------------------|-------------------------|----------------|-------|
| ListEditions | エディションリスト取得 | エディション特定オブジェクト | ○ |
| ListRevisions | リビジョンリスト取得 | 取得対象オブジェクト | |
| ListCheckedOutObjects | チェックアウト済みオブジェクトリスト取得 | 起点オブジェクト | |
| ListHardRefs | ハードリファレンスリスト取得 | リファレントオブジェクト | |
| LockObject | ロック | 更新対象オブジェクト | |
| UnlockObject | アンロック | 更新対象オブジェクト | |
| ChangeStatus | 状態変更 | 更新対象オブジェクト | ○ |
| ChangeClass | クラス変更 | 更新対象オブジェクト | ○ |
| ChangeAcl | アクセス権変更 | 更新対象オブジェクト | ○ |
| ChangeDefaultAcl | デフォルトアクセス権変更 | 更新対象オブジェクト | ○ |
| GetObjectPath | オブジェクトのパスの取得 | 取得対象オブジェクト | |
| RealizeRef.Source | リファレンス実体化 (参照先オブジェクト) | 参照先オブジェクト | ○ |
| RealizeRef.Target | リファレンス実体化 (生成されたオブジェクト) | 生成されたオブジェクト | ○ |
| UpdateContent | 内容依存情報の更新 | 更新対象オブジェクト | ○ |
| StampObject | スタンプ | 更新対象オブジェクト | ○ |
| GetCabinet | キャビネットの取得 | 取得対象オブジェクト | |
| ChangeObjectCategory | オブジェクトカテゴリーの変更 | 更新対象オブジェクト | ○ |
| InsertPrimaryContentCache | プライマリーコンテンツキャッシュの挿入 | 更新対象オブジェクト | ○ |
| RedefineClassification | 分類ビューの定義情報の更新 | 更新対象オブジェクト | ○ |
| UpdateNumberOfClassifiedObjects | 該当オブジェクト数の更新 | 更新対象オブジェクト | |
| DisuseObject | ごみ箱への移動 | 移動対象オブジェクト | ○ |
| ReuseObject | ごみ箱からの復元 | 復元対象オブジェクト | ○ |
| NotifyTimerEvent | タイマーイベントの通知 | 通知対象オブジェクト | |
| GetObjectOperationLog | 操作ログの取得 | 取得対象オブジェクト | |

付録 A.3 操作ログのクライアント操作識別子

操作ログに出力されるクライアント操作識別子と操作との対応表は次のとおりです。ドキュメントスペースで操作ログを表示したときは、表中の「操作」欄の値が表示されます。

ドキュメント管理サービス管理コマンド、およびドキュメント管理サービス管理アプリケーションで操作ログをエクスポートしたときは、表中の「クライアント操作識別子」欄の値が出力されます。

表 : 操作に対応するクライアント操作識別子

| 操作 | クライアント操作識別子 |
|---------------------------------|---------------------------|
| ダウンロード | DOWNLOAD |
| コンテンツ表示 | VIEW |
| インデックス表示 | VIEW |
| 画像表示 | VIEW |
| コンテンツ表示 (パスモード) | VIEW |
| ドキュメント登録 (ドラッグ&ドロップによる登録も含む) | CREATE_DOCUMENT |
| フォルダー登録 | CREATE_FOLDER |
| リファレンス作成 | CREATE_REFERENCE |
| マークリファレンス作成 | CREATE_REFERENCE |
| コンテンツ差し替え | CHANGE_CONTENT |
| リモート編集 | REMOTE_EDIT |
| コピー | COPY |
| マークコピー | COPY |
| 移動 | MOVE |
| マーク移動 | MOVE |
| 削除 | DELETE |
| 復元 | RESTORE |
| 属性変更 | CHANGE_PROPERTIES |
| 名前変更 | CHANGE_PROPERTIES |
| 属性コピー | CHANGE_PROPERTIES |
| アクセス権変更 | CHANGE_ACL |
| デフォルトアクセス権変更 | CHANGE_DEFAULT_ACL |
| 状態変更 | CHANGE_STATUS |
| ロック | LOCK |
| ロック解除 | UNLOCK |
| リファレンス属性更新 | UPDATE_REFERENCE |
| リファレンス実体化 | REALIZE_REFERENCE |
| ドキュメント情報更新 | UPDATE_CONTENT_PROPERTIES |
| 改版 | RAISE_EDITION |

表 :操作に対応するクライアント操作識別子

| 操作 | クライアント操作識別子 |
|-------------------|-------------------------------------|
| 版管理開始 | ASSIGN_EDITION_KEY |
| 版管理取り消し | DISPOSE_EDITION_KEY |
| チェックアウト | CHECKOUT |
| チェックアウト取り消し | UNCHECKOUT |
| チェックイン | CHECKIN |
| 履歴全削除 | REMOVE_REVISION |
| ロールバック | REMOVE_REVISION |
| 分類ビュー作成 | CREATE_CLASSIFICATION |
| 分類ビュー情報設定編集 | CHANGE_CLASSIFICATION |
| 該当件数更新 | UPDATE_NUMBER_OF_CLASSIFIED_OBJECTS |
| 属性表示 | SHOW_PROPERTIES |
| 基本情報表示 | SHOW_PROPERTIES |
| プロパティウインドウ | SHOW_PROPERTIES |
| アクセス権表示 | SHOW_PROPERTIES |
| デフォルトアクセス権表示 | SHOW_PROPERTIES |
| キャビネット情報表示 | SHOW_PROPERTIES |
| 分類ビュー設定情報表示 | SHOW_CLASSIFICATION |
| オブジェクト一覧表示 (更新含む) | OPEN |
| オブジェクト表示 | OPEN |
| ごみ箱 | OPEN |
| マーク済み | OPEN |
| ドキュメント管理サービス | OPEN |
| ドキュメントページ | OPEN |
| 開く | OPEN |
| ツリーウインドウ | OPEN |
| 履歴表示 | LIST_REVISION |
| 詳細検索 | SEARCH |
| 種文書検索 | SEARCH |
| 自然文検索 | SEARCH |
| 簡易検索 (再検索除く) | SIMPLE_SEARCH |
| 検索設定 (作成、更新を含む) | SEARCH_CONDITION |
| 検索設定の保存 | SAVE_SEARCH_CONDITION |
| 検索設定の削除 | DELETE_SEARCH_CONDITION |
| 表示設定 | CHANGE_LIST_CONTEXT |

表 :操作に対応するクライアント操作識別子

| 操作 | クライアント操作識別子 |
|-----------------|------------------------|
| URL表示 | LIST_URL |
| CSV出力 | OUTPUT_CSV |
| ワークスペース一覧 | LIST_WORKSPACE |
| カレントワークスペース | WORKSPACE |
| お気に入り追加 | ADD_TO_FAVORITE |
| ユーザ設定 | SET_USER_CONFIGURATION |
| 原本性保証情報付きダウンロード | DOWNLOAD_WITH_EVIDENCE |
| 証明付与 | ATTACH_CERTIFICATION |
| 原本性検証 | VERIFY_ORIGINAL |
| 原本性保証情報付き登録 | REGIST_WITH_EVIDENCE |
| 原本性保証情報表示 | SHOW_EVIDENCE |
| ワークフロー起動 | INVOKE_WORKFLOW |
| ユーザー定義操作 | USER_OPERATION |
| クラス変更 | CHANGE_CLASS |
| スタンプ | STAMP_OBJECT |
| 操作ログ | SHOW_OPERATION_LOG |

付録 A.4 操作ログのクライアント操作情報

操作ログの「クライアント操作識別子」を補うための情報として、「クライアント操作情報」があります。キーと値の組を複数個列挙した形式で記録されます。ドキュメントスペースなどから操作したときに、操作で取得したり更新したりするコンテンツの種類や、履歴を削除する方法などが識別できます。

クライアント操作情報として記録される情報は、次のとおりです。

表 : クライアント操作情報

| キー | 記録内容 | 対象 |
|--------------------|---|---|
| appOperation | ドキュメントスペースのクライアント操作識別子 | すべての操作 |
| userOperationType | 特殊な操作の種別 ドラッグ&ドロップだけのときに、"dnd"という値を記録します。 | ドラッグ&ドロップによる操作 |
| removeRevisionType | 履歴削除の方式 ALL : 履歴全削除 ROLLBACK : ロールバック | 履歴全削除 ロールバック |
| content | 登録または取得するコンテンツの種別： "[{コンテンツラベル1} ["/" {<コンテンツラベル2} ["/" ...]]]" {コンテンツラベル} は、アトムを表す文字列で、{プレフィックス} ":" {名前} で表されます。 例) [system:primary/system:view] | ダウンロード コンテンツ表示 インデックス表示 画像表示 コンテンツ表示 (パスモード) ドキュメント登録 コンテンツ差し替え チェックイン リモート編集 |